

2023年度 前期 市民開放授業 募集案内

市民開放授業は新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、2023年度も小規模開催とします。
また、今回は前期の授業のみの募集になりますのでご注意ください。
後期の実施については、前期の状況を確認し判断します。

目 次

I	実施形態	1
II	受講手続	2
III	受講に際して	4
IV	「市民開放授業一覧」・「シラバス」について	5
	市民開放授業一覧	7
	◎ 前期開講授業	
	・ 松本キャンパス	
	全学教育機構	
	人文学部	
	経法学部	
	・ 長野（教育）キャンパス	
	教育学部	
	シラバス（授業内容の紹介）	9
V	交通のご案内	51

信州大学では、学生のために開講している通常の授業を可能な限り開放し、学生と一緒に受講したいと思う一般市民の方々を受講生として募集します。

これは、信州大学が行う大学開放活動の一環で、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、本学と地域社会の連携をより一層深めていくことを目的としたものです。

受講するにあたっては、事前に応募していただく必要があります。本学の学生や教職員とキャンパス・ライフをお楽しみください。

I 実施形態

■ 開講期間及び授業時間

- ・ 前期開講授業 2023年4月から2023年7月まで
※休業日・振替授業日等があります。必ず学年暦（受講決定者に後日送付）をご確認ください。

- ・ 授業開始日

学 部 等	授業開始日
	前期
全学教育機構	4月10日（月）
人文学部	
経法学部	
教育学部	

- ・ 授業時間

※新型コロナウイルス感染症の影響で、午後の授業時間を30分繰り下げて実施しています。

時 限	1	2	3	4	5	6
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	13:30～ 15:00	15:10～ 16:40	16:50～ 18:20	18:30～ 20:00

- ・ 授業時間【教育学部】

※2019年度より教育学部のみ100分授業に変更になりました。

時 限	1	2	3	4	5	6
時 間	8:40～ 10:20	10:30～ 12:10	13:00～ 14:40	14:50～ 16:30	16:40～ 18:20	18:30～ 20:10

- 開放授業、受講学部、講義室、募集人数等
「市民開放授業一覧」（7ページ）のとおりです。

Ⅱ 受講手続

■ 受講手続の流れ

以前までの受講手続と方法が異なりますので、ご注意ください。
試聴期間は設けませんので、シラバス（授業内容の紹介 9ページ～）を参考にし、以下のとおり応募期限までにご応募ください。

① 応募方法

(1) ハガキでの方法

ハガキ裏面に以下の【必要事項】を明記の上、「信州大学 学務部学務課教務グループ 市民開放授業担当」（〒390-8621 松本市旭 3-1-1）宛にお送りください。

(2) メールでの方法

メールの件名は「市民開放授業申込み」として、以下の【必要事項】を明記の上、「shimin@shinshu-u.ac.jp」宛にお送りください。

【必要事項】

①郵便番号と住所 ②氏名 ③電話番号 ④メールアドレス（携帯電話以外で連絡が取れるもの） ④「2023年度前期市民開放授業 希望授業」

- ・ハガキとメール以外による受付はしません。
- ・1授業につき、一人1通にしてください。
- ・1通につき、記入する授業は1授業にしてください。
- ・1授業につき複数の応募や必要事項の記載がないものは、無効となる場合があります。

応募期限 2023年3月17日（金）（必着）

② 受講者の決定

応募多数の科目の場合は抽選で受講者を決定し、結果は応募者全員に3月31日（金）頃に郵送でご連絡します。

③ 受講料納付・受講登録

受講決定者は、4月10日（月）～4月21日（金）の間に各キャンパスの受講窓口で、受講料を納付し受講登録してください。

- ・受講料の納付は、受講するキャンパスごとになります。
- ・受講登録時に必要な書類等は、受講決定者へ郵送でお送りしますので、詳細はそちらをご確認ください。

【主な受講登録時に必要な書類等】

- ・市民開放授業受講届
- ・受講料 1授業 9,400円 (※一部例外あり)
- ・運転免許証, 保険証, パスポート等の身分を証明できる書類
- ・受講証用写真 (縦4cm×横3cm) 1枚 (6ヶ月以内撮影)

※ 受講料が異なる授業については、「市民開放授業一覧」(7ページ)の「備考」欄に金額が記載されています。また、受講料以外に授業で使用するテキスト代、及び授業に係るその他の費用は、受講生のご負担となります。

なお、いったん納入された受講料は、返還できませんのでご了承ください。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、本学の都合で中止とする場合は、ご返金します。

受講料は、本学の運営費用にあてられます。

④ 受講証の交付

受講登録が完了した方に正式な受講証をお渡しします。来学の際は携帯するようお願いします。

各期において複数の授業を受講する場合でも、受講証は1枚のみの発行となります。

■ 受講窓口

下記の各キャンパス受講窓口(☆)で受講料の納付・受講登録をしてください。

<登録受付時間> 8:30~17:00 (土日、祝祭日を除く)

不明な点は総合窓口までお問い合わせください。

◎ 松本キャンパス 〒390-8621 松本市旭3-1-1

☆市民開放授業 総合窓口 TEL: 0263-37-2870

(全学教育機構1F 学務部学務課教務グループ)

※ なお、授業に関してのお問い合わせは、下記各学部等の窓口へ

全学教育機構 学務部学務課 共通教育支援室 TEL: 0263-37-2978

人文学部 学務係 TEL: 0263-37-2280

経法学部 学務グループ TEL: 0263-37-2304

◎ 長野(教育)キャンパス 〒380-8544 長野市西長野6のロ

☆教育学部 学務グループ TEL: 026-238-4057

■ 事前説明会は開催しません。

Ⅲ 受講に際して

- 新型コロナウイルス等感染症対応のお願い
 - ・ マスクの着用，手洗いの励行をお願いします。
 - ・ 体調の悪い方，発熱している方は，出席をご遠慮いただきますようお願いいたします。
 - ・ 基礎疾患等のある方は，慎重なご判断をお願いします。
 - ・ 講義室によっては，座席数の制限を新型コロナウイルス感染症発症以前の状態に戻しているところもあります。
 - ・ 感染状況により，予定の変更や中止となる場合がありますのでご了承ください。中止の場合にはご返金します。

- 試験，修了証について
 - ・ 受講のための検定試験はありませんので，授業内容や難易度をご確認のうえお申し込みください。
 - ・ 市民開放授業の受講生に，単位認定は行いません。
 - ・ 受講を証明する修了証を希望される方は，出席日を記入した「受講修了証発行願」（受講決定者に後日送付）を学期終了時に受講窓口に提出してください。修了証の発行には，原則として試験期間を除く授業日の2/3以上の出席が必要となります。
 - ・ 受講生は原則として定期試験を受ける必要はありません。
 - ・ 単位認定を希望される場合は，「科目等履修生」の制度がありますので，料金その他詳細に関しては，各学部の学務担当係までお問い合わせください。

- 図書館の利用

新型コロナウイルス感染症の影響で，図書館の利用については開講キャンパスにより対応が異なります。

詳細は受講決定者に後日お知らせします。

- 信州大学生生活協同組合の利用

信州大学生生活協同組合に加入し，本の割引等のサービスを受けることができます。加入には出資金が必要ですが，脱退時には全額返還されます。

- 受講生の呼び出し等

授業中その他受講生の呼び出しには対応できかねます。また，授業中は携帯電話等の電源をお切りください。

- 受講の停止

受講にあたっては本学が行う教育及び研究に支障が及ぶことがないよう努めてください。また，教職員の指示には従ってください。指示に従わなかったり，受講生としてふさわしくないと判断された場合，受講を停止することがあります。

なお，受講停止の場合であっても，既納の受講料は返還できません。

■ 損害賠償

本学の施設、設備等を破損したときは、届け出てください。その損害を賠償していただくことがあります。

■ 授業の撮影・情報等について

授業担当教員の許可のある場合を除いて、授業の板書や投影される資料等を撮影したり、授業の内容を録音・録画することはできません。また、著作権侵害に相当する場合がありますので、授業の情報を SNS 等に投稿してはいけません。

■ 通学方法等

各キャンパス（伊那キャンパスを除く）には駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。なお、トラブルや事故が起きた場合、大学側では責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 休講情報等

休講、補講、教室変更等の連絡はキャンパス情報システム・公用掲示板によって行います。緊急の場合等はできる限り電話等によりお知らせいたしますが、ご連絡できない場合もありますのでご了承ください。

なお、臨時休業日、振替授業日等が既に決まっている日がありますので、必ず学年暦をご確認ください。

■ e-Learning「eALPS」を利用する授業

授業によっては、オンライン授業や関連した資料や参考文献の紹介と配付、質疑応答、その他様々な諸連絡をインターネットを利用した「信州大学 eALPS」上で行うものがあります。「eALPS」の利用を申請する場合は、受講窓口までお願いします。登録には、多少の日数がかかる場合があります。

■ いただいた個人情報は、市民開放授業の目的以外には使用しません。

■ 障害等で受講上配慮が必要な方は窓口でご相談ください。

IV 「市民開放授業一覧」・「シラバス」について（7ページ～）

■ 「授業曜日・時限」

例1) 木2 : 木曜日の2時限(10:40~12:10)(教育学部は10:30~12:10)に開講します。

例2) 火4 } 週に2回授業があります。
水1 }

第1回 4/11(火) 4時限, 第2回 4/12(水) 1時限, 第3回 4/18(火) 4時限・・・

- 講義室は受講者数等の関係で変更になることがありますので、変更の掲示や教員の指示にご注意ください。

- 「難易度」は、授業の内容に応じて次の三段階に区分しています。
 - 【A】：入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの
（大学1年次対象の授業）
 - 【B】：より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの（大学2～3年次対象の授業）
 - 【C】：高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの（大学3～4年次対象の授業）

- 受講料が「9,400円」以外の授業については、「備考」欄にその金額を記載してあります。

- シラバス（授業内容の紹介）は、2023年度用の用意在間に合わないため、過去のシラバスを掲載しますので参考にしてください。（9ページ～）実際の「曜日・時限」「講義室」等は、「市民開放授業一覧」をご覧ください。
シラバスの「授業題目」、「授業科目」は、「授業名」と同じことです。
4月以降には以下のホームページで、最新のものを閲覧できます。
<シラバス> <https://campus-3.shinshu-u.ac.jp/syllabusj/Top>

<前期 市民開放授業一覧>

※「シラバス」(9ページ～)は過去の情報になりますので、「曜日・時限」「講義室」等はこちらの一覧をご覧ください。
※授業はすべて「対面授業」です。

登録コード	授業名	担当教員氏名	曜日・時限	講義室	受入可能人数	難易度	備考
-------	-----	--------	-------	-----	--------	-----	----

【受講場所】全学教育機構

※全学教育機構の「初回の授業」のみ、諸事情で40分授業になります。

G2B40302	出版メディアと江戸文学	速水 香織	木2	全56	3	A	
G2B40604	知っておくべき知的財産と研究倫理の基本	松山 紀里子	火5	全42	3	A	
G2B41010	国・地方の経済・財政、地方創生等の現状と課題	辻 庄市	火2	全56	3	A	
G2B41106	ドイツ語圏の文化(社会事情)	松岡 幸司	火2	全62	3	A	
G2B41112	国際理解と多文化共生を考えるⅠ	佐藤 友則	火5	全43	3	A	
G2B50306	生活の中の化学	勝木 明夫	木2	全12	3	A	
G2B60134	ライフサイクルアセスメント入門	中村 正行	水3	全42	3	A	

【受講場所】人文学部

※人文学部の授業は原則「対面授業」の予定ですが、授業によっては「初回又は2回目までの授業」がオンライン授業に変更になる場合もあります。
その際は、受講決定者へお知らせします。

【追記2/17】人文学部の参考に掲載している過去のシラバスの一部は、担当教員が2023年度前期と異なるものがあります。その場合、シラバスの内容が大幅に変更になる可能性があります。ご了承ください。

L1133900	哲学・思想論特論Ⅹ	早坂 俊廣	火2	人2	3	B	
L1134200	哲学・思想論特論ⅩⅡ	護山 真也	水5	人2	3	B	シラバス担当教員異なる
L1134800	哲学・思想論基幹演習Ⅵ	三谷 尚澄	金4	人3	3	B	
L1135100	哲学・思想論基幹演習Ⅹ	早坂 俊廣	木2	人2	1	B	
L1420100	社会学概論Ⅰ	茅野 恒秀	木2	人4	3	A	
L1830200	東洋史特論Ⅱ	豊岡 康史	水3	人2	3	B	
L2120100	中国語学概論Ⅰ	伊藤 加奈子	水3	人3	3	A	
L2130800	中国語学・中国文学基幹演習Ⅱ	氏岡 真士	金2	人3	1	C	要予習復習
L2220100	ドイツ言語文化概論Ⅰ	磯部 美穂	金2	人5	3	A	
L2220200	ドイツ言語文化概論Ⅱ	葛西 敬之	木3	人4	3	A	
L2430100	英語学特論Ⅰ	ASH LEIGH SPREDBURY	金2	人2	1	B	シラバス担当教員異なる
L2431200	英語学基幹演習Ⅵ	ASH LEIGH SPREDBURY	金4	人1	1	B	シラバス担当教員異なる

登録コード	授業名	担当教員氏名	曜日・時限	講義室	受入可能人数	難易度	備考
L2520100	英語文学概論 I	杉野 健太郎	木4	人2	3	A	
L2533100	英語文学特論X I	杉野 健太郎	木3	人2	3	B	
L2533300	英語文学基幹演習 I	杉野 健太郎	火2	人3	3	B	
L2720100	日本語学概論 I	中澤 光平	金2	人4	2	A	
L2820100	日本語教育学概論 I	坂口 和寛	火1	人5	3	A	シラバス担当教員異なる
L2830500	日本語教育学特論V	坂口 和寛	火2	人5	3	B	シラバス担当教員異なる
L2830800	日本語教育学基幹演習 II	坂口 和寛	金3	人5	3	C	
L2831100	日本語教育学基幹演習 V	坂口 和寛	金4	人5	3	C	
L2960600	書道芸術 I	大島 武	月3 月4	人2	3	A	13,400円
L2961200	古典語 V	護山 真也	火1	人2	3	B	
L2961600	英語ライティング I	GRAY DAVID JOHN	木1	人202	2	C	
L2961801	英語コミュニケーション初級 I	VAN DEN BERGH PETER CHARLES	月3	人202	3	A	
L2962000	英語コミュニケーション中級 I	VAN DEN BERGH PETER CHARLES	月4	人202	3	B	
L2963200	中国語コミュニケーション中級 I	島崎 朋子	月5	人205	3	B	シラバス担当教員異なる
L2963400	中国語コミュニケーション上級 I	中島 暉	木1	人204	3	B	シラバス担当教員異なる
L2963600	英米文化事情 I	VAN DEN BERGH PETER CHARLES	月2	人1	3	C	
L2964000	東洋文化事情 I	延 鎮淑	火3	人4	2	B	

【受講場所】経法学部

J2109200	世界経済論	吉村 信之	火4	経3	3	A	
J2117200	金融論A	山沖 義和	火1	経1	3	B	
J3114300	医療制度論	増原 宏明	火1	経3	3	B	
J3211300	環境と憲法訴訟	成澤 孝人	月2	経4	3	B	

【受講場所】教育学部

E2633900	体育社会学	橋本 政晴	金1	教N101	3	A	
E9120200	神経・生理心理学	高橋 知音	木1	教N303	3	B	

時間割コード	G2B40302	開講年度	2022	市民開放授業				
授業題目	出版メディアと江戸文学			担当教員	速水 香織			
英文授業名	Study of Publishing media and Japanese Literature in the Edo period							
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜, 2時限		対象学生	全
講義室	共通教育5 6 講義室		授業形態	講義	備考	【地域】		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加わらぬ対象】的確に情報を収集し、理解し、発信する力 【授業の達成目標】 ・毎回の授業から得られる知識の蓄積と知見の深まりとによって、文化史の流れを理解し、その重要性を明確に認識したうえで自己の考えを発信することができる。 【授業のねらい】 江戸時代に大きく発展した出版文化について学び、文化を生み出し、継承することの重要性を認識することにより、日本文化への理解を深めた上で、自己の考えを表現することができる。この毎回の授業で得る知識の蓄積を通じて、目標を達成する。</p> <p>(2)授業の概要 江戸時代、日本では、はじめて本格的な商業出版が行われるようになりました。そして、京都や大坂、江戸に興った大衆文化とあいまって、それまでに受け継がれた古典・新たに生み出された作品や実用書が、続々と版行されたのです。 この授業では、主に江戸時代前期に活動した本屋さん（出版書肆）とその出版物を取り上げ、本屋同士の係わりや、本が出版されるまでの過程等に注目し、当時の文化状況について考えてゆきます。</p> <p>(3)授業のキーワード 江戸時代、出版文化、古典籍</p> <p>(4)授業計画 1. ガイダンス 2. 江戸時代と商業出版の始まり 3. 江戸時代初期の出版物 「古活字版」 4. 江戸時代初期の出版物 「整版」 5. 出版物の製作コスト・価格・刊行状況 6. 出版文化の広がりとは諸問題 特に「上方」と「江戸」 7. 板権意識の顕在化 8. 好色本の流行 そして「上方」と「江戸」 9. 元禄期の江戸出版界 いくつかの本屋に注目する 10. 発展する組織 三都出版界の協力と相克 11. 三都出版界の協力と相克 類板問題をもう少し考える 12. 三都出版界の協力と相克 中山道関連の書籍出版をめぐる 13. 江戸文芸の出版 14. 江戸文芸の出版 15. まとめ：授業の総括と期末レポートの説明、授業アンケート</p> <p>(5)成績評価の方法 毎回の授業に置いて、コメントの提出を求めます。それにより授業ごとの到達度をはかるとともに（50点）、中間レポート（20点）・期末レポート（30点）を提出して戴きます。 コメントについて、授業内容を纏めるだけではなく、意見・考察などを積極的に記入できているかによって、授業の内容理解度を判断します。</p> <p>(6)成績評価の基準 コメントは、授業内容への言及・質問の内容によって授業の理解度や受講態度を判断します。 コメントの中で、授業中の内容を自己の知識や知見と有機的に結び付けた優れた内容を述べることであれば「卓越している」、授業に関し具体的で優れた内容を述べることであれば「かなり上にある」、授業中の内容に関し具体的な内容を述べることであれば「やや上にある」、授業中の内容に触れた見解を述べることであれば「その水準にある」と評価します。 レポートは、授業の内容を理解し、それをふまえて課題に取り組みしているかを評価の基準とします。課題への取り組み方法は、授業中に詳細をアナウンスします。単に辞書の記述をまとめているのみに留まるものは、レポートとして評価しません。</p> <p>(7)事前事後学習の内容 授業中に、次回の授業についての資料を配布します。それに事前に目を通して予備知識を得、受講準備を整えることを事前学習とします。 江戸時代に成立した様々な書籍を紹介してゆきます。自己の興味関心に従い、積極的にそれらの書物に触れることを事後学習とします。</p> <p>この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 毎回提出して戴くコメントの内容を重要な評価対象とします。なお、授業の内容をただまとめたもの、抽象的な感想のみが書かれたものは、評価対象としません。授業を漫然と聞くだけではない、積極的な受講姿勢を求めます。 また、授業中の私語・教員の許可を得ない教室の出入りは一切認めません。他の受講生の迷惑になると担当教員が判断した場合は、その受講生に退室を命じ、単位認定を行わないことがあります。</p> <p>(9)質問、相談への対応 木曜日の12:10～13:00をオフィスアワーとします。 事前にメールでの連絡をお願いします。メールアドレスは、khayami@shinshu-u.ac.jpです。</p>								
<p>【教科書】 適宜プリントを配布します。プリントには、多くの参考文献を掲載しますが、可能な限り附属図書館で閲覧できるものを使用します。特に購入の必要はありませんが、事前事後学習に、積極的に役立ててください。</p> <p>【参考書】 今田洋三『江戸の本屋さん 近世文化史の側面』（平凡社ライブラリー-685, ISBN13:978-4-582-76685-1, 1300円） 橋口候之介『和本入門 千年生きる書物の世界』（平凡社ライブラリー, ISBN13:978-4-582-76744-3, 1470円）</p>								

時間割コード	G2B40604	開講年度	2022	市民開放授業				
授業題目	知っておくべき知的財産と研究倫理の基本			担当教員	松山 紀里子			
英文授業名	Introduction to Intellectual Property and Research Ethics							
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 5時限		対象学生	全
講義室	共通教育 1 2 講義室		授業形態	講義	備考			
<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【2020年度以降対象】的確に情報を収集し、理解し、発信する力 ・【2020年度以降対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組み <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産と法律等により保護される知的財産権に関する基本的な知識を習得し、身近な商品やサービス等への知的財産権の活用事例とその効果、どのような行為が権利侵害になるの理解できるようにする。 ・工業所有権情報・研修館(INPIT)が運営する特許情報プラットフォーム「J-PlatPat」を用いて、特許・実用新案・意匠・商標の簡単な検索ができるようになる。 ・アイデアや創作の成果(知的財産)の本質を理解し、社会課題を解決する考え方や手法について基本的な知識を習得することができる。 ・大学生として知っておくべき研究倫理の基本的な知識を習得することができる。 <p>【授業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動や社会活動に参加するにあたり、大学生として知っておくべき知的財産(発明・考案・デザイン・商標・著作物・新品種・営業秘密など)と研究倫理の基本的な知識を習得するとともに、その知識に基づいてグループメンバーと協働して身近な課題の解決(発明の創出)に取り組む。 ・工業所有権情報・研修館(INPIT)が運営する特許情報プラットフォーム「J-PlatPat」を用いて、特許・実用新案・意匠・商標の簡単な検索ができるようになる。 ・研究活動に関わる人が知っておくべき研究倫理の基本的な知識を習得することができる。 <p>(2)授業の概要</p> <p>この授業では、大学生として知っておくべき「知的財産」と、研究に関わる者として知らなかったでは済まされない「研究倫理」について、ゼロから基本的な知識を学びます。では、特許事務所や大学等での実務経験があり、現在、本学の知的財産・ベンチャー支援室長として知財実務を担当する講師が、知的財産の種類、保護する法律等の基礎知識に加えて、身近な知的財産やニュース等の具体的な事例を教材として用います。また、新たな発明を創出するグループワークを行い、その成果について特許庁・文部科学省が主催する「パテントコンテスト」(9月4日)に応募し、入賞を目指します。(令和2年度は、2グループが優秀賞に入賞)</p> <p>(参考URL) https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suirio/topics/2-102.html</p> <p>では、現在、本学の研究コンプライアンス室の副室長として実務を担当する講師が、過去の事例を取り上げながら、研究倫理の基礎知識に加えて、これから大学生として研究を行っていく上でのリスクマネジメント法を考えます。</p> <p>(3)授業のキーワード</p> <p>知的財産、発明、特許、実用新案、意匠、商標、著作物、著作権、新品種、ライセンス、特許調査、パテントコンテスト、技術移転、ライセンス契約、知財戦略、研究倫理、研究不正、利益相反、安全保障輸出管理、生物多様性条約、秘密保持、グループワーク、実務経験</p> <p>(4)授業計画</p> <p>[スケジュール]</p> <p>第1回(4/12): ガイダンス(なぜ知的財産と研究倫理を学ぶ必要があるのか?)</p> <p>第2回(4/19): 特許・実用新案の基礎知識</p> <p>第3回(4/26): 特許・実用新案の基礎知識</p> <p>第4回(5/10): 意匠(デザイン)の基礎知識</p> <p>第5回(5/17): 商標(トレードマーク)、育成種(種苗法)の基礎知識</p> <p>第6回(5/24): 著作権、営業秘密、研究成果有体物等の基礎知識</p> <p>第7回(5/31): 知的財産のまとめ(ミニテスト、事例に基づくグループ討論)</p> <p>第8回(6/7): 研究倫理の基礎知識</p> <p>第9回(6/14): 研究倫理に関する事例から学ぶ</p> <p>第10回(6/21): 知的財産情報の検索・解析・活用(特許・実用新案)</p> <p>第11回(6/28): 知的財産情報の検索(意匠・商標調査)</p> <p>第12回(7/5): 知的財産を巡る事件/大学と知的財産(技術移転、大学発ベンチャー企業)</p> <p>第13回(7/12): グループワークの中間発表</p> <p>第14回(7/19): 大学生活に必要な知的財産と研究倫理の知識(本講義のまとめ)</p> <p>第15回(7/26): グループワークの最終発表、授業アンケート</p> <p>[課題レポート]</p> <p>第2～5回、第7～12回講義の最後に授業内容に関する課題レポート(全10回)を出します。次の講義前日までにe-ALPSを通じて提出してください。第2回～5回、第7回～8回は知的財産・研究倫理に関する知識の定着を目的として、身近な知的財産を探したり、ニュース等を調べて(A4サイズ・1枚)にまとめてもらいます。第9回～12回は、知的財産情報を検索する基本技術を身に付けてもらうために、J-PlatPat (https://www.j-platpat.inpit.go.jp/)を用いて知的財産権を調べて(A4サイズ・1～2枚)にまとめてもらいます。課題レポートは様式を準備します。また、課題レポートで取上げた発明等について特許公報等の情報をできるだけフィードバックします。</p> <p>[ミニワーク]</p> <p>第1回～6回は、講義内容に関連するミニワーク(10～20分)を実施します。クイズ形式、ワークショップ形式、ディスカッション形式などゲーム感覚で取り組める内容を予定しています。授業の進捗に応じてミニワークを実施しないこともあります。</p> <p>[グループワーク]</p> <p>第7回からパテントコンテスト (https://www.patentcontest.inpit.go.jp) の応募に向けた新たな発明を創出するグループワークを実施します。具体的には、第7回～8回にグループで解決する課題を設定し、アイデアを練って具体的な発明品を創出していきます。</p> <p>第13回に発明概要シート(A4サイズ・1～3枚)に基づく中間発表を行ってもらいます。他の受講生からのフィードバックを受けて発明を練り直し、第15回までにパテントコンテストの申請書と、プレゼン資料を作成し、最終発表してもらいます。最終発表には、元・企業の知財担当者や弁理士などの知財専門家審査員(2～3名)としてお招きし、評価してもらいます。</p> <p>(5)成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の課題レポート 50点(5点×10回) ・第7回ミニテスト(選択式) 20点 ・グループワーク 30点(中間発表:10点、最終発表:20点) <p>(6)成績評価の基準</p> <p>[課題レポートの評価基準(5点満点)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の意図・授業内容を理解して適切な回答ができていれば、3.5点。 ・適切な文章表現、論理展開、図表等により分かりやすく説明できていれば、1.5点。 <p>[ミニテストの評価基準(20点満点)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各問について4つの選択肢から正しい回答ができていれば、1点。全20問。 <p>[グループワークの評価基準(30点満点/グループ全員同じ評価とします)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間発表(10点): 発明概要シートの各項目の記載が、教員を感心させるレベルならば4点。よく練られていれば4点。適切であれば3点。不十分であれば2点。 ・最終発表(20点): パテントコンテストの応募書類の記載が、教員を感心させるレベルならば10～9点。よく練られていれば8～7点。適切であれば6～5点。不十分であれば4～3点。プレゼンテーション&質疑応答が、特に優れていれば10～9点。適切であれば8～6点。不十分であれば5～3点。 ・受講生による投票により、上位1/4に入ったグループには最大5点、1/4未満～1/2に入ったグループには最大3点を加点。(30点満点を上限として加点します) <p>(7)事前事後学習の内容</p> <p>[60時間以上の時間外学習が必要となります]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義の最後に課題レポートを課します。課題は、身の回りの知的財産を探したり、調べてもらう内容となります。日頃からどんな製品やサービスに知的財産が活用されているのか、ヒット商品のウラにある企業戦略などを意識するようにしてください。 ・毎回の講義で、授業内容の理解を深めるために役立つWebサイト、書籍、報告書、テレビ番組等を紹介し、可能な範囲で確認して復習するようにしてください。 ・授業時間内にグループワークの時間を少し設けますが、グループでの議論や作業の多くは授業外で行うことになります。 <p>(8)履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義資料等は、毎回の授業後にe-ALPSにアップします。復習に活用してください。 ・出席は、QRコード読み取りによる出席確認システムを利用します。授業開始後30分後から遅刻とします。 ・グループワークは、授業時間外にグループメンバーで話し合っており、役割分担や協働して作業を進める必要があります。 ・パテントコンテストに入賞した場合、特許事務所(弁理士)の指導を受けながら出願書類を作成して学生さんの名義で特許出願を行います(令和5年2月頃)。特許出願と権利化に係る費用はパテントコンテストの主権者が負担します。 <p>(9)質問、相談への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問や相談は授業中、もしくは、授業の前後に受け付けます。 ・授業時間外は、kirico@shinshu-u.ac.jpまたはTEL: 0263-37-3529 (URA室)まで連絡ください。 ・知的財産管理技能士(1級～3級)、弁理士などの知財関連の資格取得についても相談のります。 <p>【教科書】 指定しない。 【参考書】 必要に応じて授業の中で紹介します。</p>								

時間割コード	G2B41010	開講年度	2022				
授業題目	国・地方の経済・財政、地方創生等の現状と課題					担当教員	辻 庄市
英文授業名	Current situation and issues of Economy, Fiscal policy and Regional revitalization						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 1時限	対象学生	全
講義室	共通教育 1 3 講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加わらず対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力 【授業の達成目標】 ・我が国の国・地方の経済・財政、地方創生等の現状と課題について基礎的な知識を習得し、我が国の経済・社会の様々な課題について論理的に考察し、自分なりの意見が持てるようになる。 【授業のねらい】 少子高齢化の進展や東京圏への一極集中による地方の衰退など、我が国の経済・社会が深刻な状況にある中で、我が国の経済・社会が運営されている基本的な枠組みや国・地方で講じられている様々な政策について概括的に学ぶとともに、ごく基礎的な経済理論も習得することにより、我が国の経済・社会の様々な課題につき論理的に考察し、自ら解決策を見出し得る力を身につけることを目指す。</p> <p>(2)授業の概要 ・財務省、内閣官房、内閣府、地方自治体などにおいて、約35年間、国・地方の行政に携わってきた実務経験を活かして授業を行う。 ・授業では、我が国の経済の現状、少子高齢化の進展、東京圏への一極集中の現状などについて説明するとともに、これらにより生じている諸課題を解説した上で、財政、税制、国債管理、地方税財政、金融制度など、我が国経済・社会が運営されている基本的な枠組みや、国・地方で講じられている様々な政策について概説するとともに、これらに関するごく基礎的な経済理論も解説する。 ・地方創生やデジタル田園都市構想などの時事的課題も取り上げる。 ・日程調整が付けば、外部講師（財務省職員など）による授業も行う可能性がある。</p> <p>(3)授業のキーワード 経済制度、日本経済論、経済政策一般、地域振興</p> <p>(4)授業計画 第1回 主要な経済指標、我が国・世界の現在の経済情勢 第2回 少子高齢化の進展・東京圏への一極集中の現状と将来見通し 第3回 地方創生・地域経済活性化の取組み （デジタル田園都市構想の検討状況を含む） 第4回 我が国の財政の現状と課題 第5回 我が国の税制・税務行政の現状と課題 第6回 国債管理政策・財政投融资制度の現状と課題 第7回 国有財産の有効活用・通貨制度 第8回 金融行政の現状と課題 第9回 金融商品と金融リテラシー 第10回 関税制度・税関行政の現状と課題 第11回 地方財政制度の現状と課題 第12回 地方税・地方債制度の現状と課題 第13回 我が国の社会保障制度の現状と課題 第14回 皇室制度・皇室財政 第15回 その他日本の経済・社会の諸課題（最新のトピックなど）、授業アンケート 期末試験</p> <p>(5)成績評価の方法 ・小レポート（40%）及び期末試験（60%）により評価する。 ・小レポートは、毎回、授業の最後に授業内容のポイントを所定の用紙に記入してもらおうものである。</p> <p>(6)成績評価の基準 授業で解説した基本的な内容を説明できれば「水準にある」、授業で解説した高度な内容を説明できれば「やや上にある」、これらを経済理論も用いて説明できれば「かなり上にある」、現実の経済・社会問題について課題を整理し自分なりの一定の解決策まで示せる程度にまで至れば「卓越している」。</p> <p>(7)事前事後学習の内容 復習を中心として、習得した知識の定着を図ってほしい。</p> <p>(8)履修上の注意 ・期末テストにおいては、毎回授業の最後に授業内容のポイントを所定の用紙に記入してもらおう「小レポート」（上記）のみを持ち込み可とする。 ・毎回出席して授業をよく聞き、授業の内容を「小レポート」に十分にかつ要領よく整理することが重要になる。 ・授業に関連する新聞等の記事には目を通すよう心掛けてほしい。</p> <p>(9)質問、相談への対応 ・授業中の質問も可とする。 ・個別の質問・相談については、メール、研究室への来訪のいずれについても対応する。なお、研究室への来訪については、できれば事前にメールでの連絡をお願いしたい。 ・なお、本授業と関連のない事項であっても質問・相談があれば対応する（担当教員は、財務省、内閣官房、内閣府等で35年間の行政経験がある）。 ・メール・アドレス： shoichi_tsuji@shinshu-u.ac.jp</p>							
<p>【教科書】 なし 【参考書】 授業において適宜紹介する。</p>							

時間割コード	G2B41106	開講年度	2022	市民開放授業			
授業題目	ドイツ語圏の文化（社会事情）			担当教員	松岡 幸司		
英文授業名	Cultures of the German-Speaking World (The social situation)				GOTO CORINNA VERENA		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 2時限	対象学生	全
講義室	共通教育 5 5 講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力 【授業の達成目標】 ・グローバル化が進む今日の社会において、国際理解・異文化理解を通して、多文化共生を軸とした社会のあり方について自分としてのスタンスを持ち、文化受容マインドを獲得することができるようになる。 【授業のねらい】 21世紀もすでに10年以上が過ぎました。様々な分野でのグローバル化に伴い、今世紀は、多様な文化との共生を目指す社会の実現へと向かう時代と言えるでしょう。その象徴と言えるのが国際語としての英語習得の必要性です。しかし、社会の中で英語が国際コミュニケーションの手段として活用されればされるほど、英語は、言語が背景に持つ文化から離れ、いわば「無国籍化」しつつあります。それに比べてドイツ語は、文化的背景を保持し続け、ドイツ語圏文化もヨーロッパ文化の中で重要な位置にあります。 本講義では、そのようなドイツ語圏文化を通して、国際理解・異文化理解の促進を目標とします。言語と文化の関連を常に意識しつつ、単なる情報ではない、息づくドイツの文化を通して、「異文化とは何か？異文化理解とは何か？」ということについて、自分のスタンスを持つことができるようになるのがこの講義の到達目標です。</p> <p>(2)授業の概要 数回の授業で一つの大きなテーマを扱います。それぞれのテーマについて教員からの情報提供（講義）を受け身で聞いているだけでは「異文化理解」は不可能です。「理解」とは能動的な働きかけなのです。そこで本講義では、教員からの情報提供の他に毎回「確認課題」を課します。それに取り組むことで、単なる「文化受信」ではなく、受講生が自ら興味を持ち、情報収集をして、自分の「異文化理解」を深める授業になります。</p> <p>(3)授業のキーワード ドイツ、オーストリア、スイス ドイツ語圏の文化、歴史、社会 課題・レポートのフィードバック</p> <p>(4)授業計画 1. オリエンテーション：ドイツ（語圏）って？（松岡） 2-4. オーストリアについて（Goto） 5-7. ドイツ概観（松岡） 8-11. ドイツ人と森（松岡） 12-15. 環境について（松岡）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15回目の授業時に、授業アンケートを実施します。 ・授業テーマの順番は、変更する可能性もあります。 <p>(5)成績評価の方法 下記の要素を総合して成績を評価する ・毎回の確認課題 [45%] ・期末のレポート [55%]</p> <p>(6)成績評価の基準 ・毎回の確認課題：出席確認を兼ねた授業内容確認課題を課し、授業内容をふりかえりつつ自分の理解度を確認し、成績評価の要素とする。 [45%] ・期末のレポート：講義内容の把握、資料を用いた視野と理解の拡大、自分の受容の確認を通して、文化受容マインドの獲得の度合いを評価する。 [55%]</p> <p>これらを総合して、下記のように評価する。 90点以上：十二分に授業の達成目標の水準に達した 80点以上：授業の達成目標の水準に達した 70点以上：ある程度、授業の達成目標の水準に達した 60点以上：最低限、授業の達成目標の水準に達した</p> <p>(7)事前事後学習の内容 ・事前にeALPSにアップされる情報やプリントに目を通して、授業の準備をする必要がある。 ・また、授業で扱うテーマについては、授業後に各自で積極的に情報を集め理解を深める必要がある。毎回その作業をしっかりと行う必要がある。その際に参考になる情報は、やはりeALPSにアップするので積極的に利用すること。</p> <p>この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 ・使用するプリントはeALPSに事前にアップします。2回目の授業から、各自授業前に自分でダウンロード&プリントアウトして授業に持参すること。 ・講義科目ではあるが、講義を聴いているだけでは異文化理解など不可能。資料には必ず目を通すだけでなく、自分の興味に従って情報を集めるとともに理解を深め、グループワークにも積極的に参加する必要がある。 ・ドイツ語初級を併せて履修すると、言語と文化の関係をより深く感じることができるので、ドイツ語も履修することを強く勧めます。</p> <p>授業開始から30分までの入室は遅刻扱い（遅刻3回で欠席1回とします）、30分以降は欠席扱いです。なお、欠席扱いの場合は「確認課題」の提出は認めません。</p> <p>(9)質問、相談への対応 松岡の対応は以下の通りです。 オフィスアワー：水曜日3限 研究室の場所：共通教育南棟3階北側 メールアドレス：maulwurf@shinshu-u.ac.jp</p> <p>オフィスアワーの時間に来れない人は、メールにて相談してください。</p> <p>【教科書】 高橋憲：《最新版》ドイツの街角から 素顔のドイツ - その文化・歴史・社会 2021～ . ISBN: 978-4261012743 . 郁文堂（2021）. ¥1,430- 【参考書】 新野守広, 飯田道子, 梅田紅子（編著）：知ってほしい国ドイツ . ISBN: 978-4874986332 . 高文研（2017）. ¥1,870-</p> <p>その他、授業時に適宜指示します。</p>							

時間割コード	G2B41112	開講年度	2022	市民開放授業			
授業科目	国際理解と多文化共生を考える			担当教員	佐藤 友則		
英文授業名	International Understanding and Multi-cultural co-living						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 5時限	対象学生	全
講義室	共通教育 4 2 講義室		授業形態	講義	備考	【地域】	
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降が対象】学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力 ・【2020年度以降が対象】的確に情報を収集し、理解し、発信する力 ・【2020年度以降が対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力 【授業の達成目標】 ・資料を探し、読み込み、それをベースにデータをまとめ、意見が書ける基礎学力。多文化共生という新しい分野の知識を理解し、意見を述べられる専門的学力 ・移民受入に関する非常に多く複雑な情報群から、妥当なものを選び出し、自分なりにまとめたうえで理解・認識し、自分なりのオリジナリティがある意見を話し、書ける能力 ・単一・自己満足・少子高齢化による日本社会の衰退が始まらぬよう、危機意識と未来への明るい展望を持って議論し、意見を固め、さらに自ら行動を始められる力 【授業のねらい】 この授業は、 世界および日本国内の多文化共生について学び、認識を深め、実際の行動に移せるようになる。： 65% 世界の多様な状況、考え方、問題点を理解・認識し、一人の人間として世界の多くの国、文化の中で生きていく意味を考える。： 35% ためのものです。</p> <p>(2)授業の概要 留学生と日本人学生とで4-6人程度のグループを作ります。そのグループは1ヶ月ほどでメンバー交代をし、受講者は3つのグループを経験します。事前学習や授業前半までの週のテーマに関する情報を得た後、グループ単位で「多文化共生」や「国際理解」に関するディスカッションを行い、お互いの情報・意見を交換し合うことで理解を深めていきます。日本の企業で勤務した経験のある教員が、その経験も活かして指導します。授業後には自分の意見を述べる課題が出ます。また、予習のために「eALPSの小テスト」が複数回実施されます。また、英語でディスカッションをするグループを作成します。英語でディスカッションしたい人も受講してください。2021年前期の受講者は全55名で、5、6名のグループを10作りしました。</p> <p>(3)授業のキーワード グループワーク OOL コミュニケーション アイデンティティ 多文化共生 移民</p> <p>(4)授業計画 1. ガイダンス/ 多文化共生の基礎 2. 効果的な自己紹介/ 松本市の紹介 3. 多文化共生を考える 自分以外の外国人由来の人 4. 外国由来の人とのミス・コミュニケーション 5. 多文化共生 外国由来の人が一緒に住んでいて「いいこと」 6. 歴史認識 7. 多文化共生 外国由来の子どもへの教育と困っていること 8. 多文化共生 行政との協働 9. 環境と自分達でできる活動 10. 多文化共生 疎外意識と英語 11. 思いこみ 12&13連続：多文化共生 外国由来の子どもへの教育改善 1 グループで協働してスライドを作成・提出・優秀なスライドは発表 (7/12、やすみ) 14. 交換留学について真剣に考えよう 15. 多文化共生 基本法：最終課題の提示、2週間で提出 終了前に授業アンケート(15分)</p> <p>(5)成績評価の方法 ・通常課題： 20% 授業の最後に出される課題の提出率 ・重要な3つの課題： 20% 授業の最後に出される課題のうち、3つの重要な課題の提出率と質 ・eALPSでの小テストの受験率： 20% ・最終課題の質： 30% ・授業での積極性： 10%</p> <p>(6)成績評価の基準 『その水準にある』：「通常課題」を60%以上提出し、「重要な3つの課題」のうち2つを提出しており、「eALPSの小テスト」を60%以上受験し、授業の内容を理解したうえで書いた「最終課題」を提出し、いくつかの授業で積極性が見られる者。 『やや上にある』：「通常課題」を70%以上提出し、「重要な3つの課題」のうち2つを提出しており、「eALPSの小テスト」を70%以上受験し、『その水準にある』事項が含まれたうえで自分なりに調べた事実を効果的に加えた「最終課題」を提出し、ほとんどの授業で積極性が見られる者。 『かなり上にある』：「通常課題」を90%以上提出し、「重要な3つの課題」を全て提出したうえである程度の評点を獲得しており、「eALPSの小テスト」を繰り返し受験し、『やや上』までの事項が含まれたうえで説得力があるレベルの「最終課題」を提出し、全ての授業で積極性が見られる者。 『卓越している』：「通常課題」を全て提出し、「重要な3つの課題」を全て提出したうえで高い評点を獲得しており、「eALPSの小テスト」を全て100点になるまで繰り返し受験し、『かなり上』までの事項が全て含まれたうえで、教員を感心させるレベルの「最終課題」を提出し、全ての授業での積極性が他の学生より際立っている者。</p> <p>(7)事前事後学習の内容 毎授業後に、授業で使ったスライドをアップロードするので、それらを読んで授業内容を復習してください。そのうえで、課題作成に必要な事実を教材やInternet等から探し、それらを総合して記述する課題を提出してください。 また、教材をページ指定のうえ読んでくるよう指示をします。しっかり読んでからeALPS「小テスト」を受けてから授業に来てください。小テストは3回受けられるので、満点にしてから受講してください。 課題は、ほぼ毎週、出ます。締切は1週間後です。 さらに、国際関係および多文化共生に関するニュースに敏感になり、様々なニュース・ソースから素早く情報を入手・判断し、他人に伝達できるよう、自分を鍛えていってください。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 同グループの人の話を聞いて、それを元に自分の情報や意見をしっかりと述べる態度を求めます。漫然と、発言もなくディスカッションの席に座っていることは許可しません。 グループは2回、交代します(計3グループ)。グループ・メンバーの迷惑になるので、遅刻・欠席をしないでください。 授業前に出席確認システムで着席登録のみしてから席を、または代理で登録することが分かった場合、CまたはDになることがあります。</p> <p>(9)質問、相談への対応 全学教育機構棟 2F・グローバル化推進センターの先にある「佐藤研究室」にいるので、質問・意見などがあれば、いつでも気軽に来てください。また、授業後すぐでも受け付けますし、メールでの質問もOKです。佐藤のメールアドレスは stono@shinshu-u.ac.jp です。 授業では、松本市内での多文化共生の活動や信大での国際交流活動を積極的に紹介します。そのような活動に興味がある場合も質問・相談に来てください。</p>							
<p>【教科書】 佐藤友則『多文化共生 8つの質問 -子どもたちが豊かに生きる2050年の日本。』第2刷または第3刷 学文社 2000円＋税 第1刷ではなく第2刷または第3刷を用意。第4章が異なるため注意。 【参考書】 『外国につながる子どもたちの物語』編集委員会 『クラスメイトは外国人 課題編』 明石書店 2020 1,300円＋税 『外国につながる子どもたちの物語』編集委員会 『クラスメイトは外国人 -多文化共生20の物語』 明石書店 2010 1,200円＋税 佐久間孝正『外国人の子ども不就学』勤草書房 2008 2,400円＋税 毛受敏浩『限界国家 人口減少で日本が迫られる最終選択』朝日新聞 2017 780円＋税 川上郁雄『私も「移動する子ども」だった。』くろしお出版 2010 1,400円＋税 松永典子『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック』金木犀舎 2018年 1,300円＋税</p>							

時間割コード	G2B50306	開講年度	2022	市民開放授業				
授業題目	生活の中の化学			担当教員	勝木 明夫			
英文授業名	Living chemistry							
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜, 2時限		対象学生	全
講義室	共通教育 1 3 講義室		授業形態	講義	備考			
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加わった対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力 【授業の達成目標】 ・身の回りの化学について理解することができるようになる。 【授業のねらい】 皆さんはいろいろな「もの」に囲まれて生活している。その「もの」は、化学物質でできている。 化学の本質は、基礎科学科目である「一般化学I, II」等で取り扱っているが、それらの内容は高校の化学と全く異なり、とっつきにくいところがあるため、本当の化学をやっているにもかかわらず、誤解される、あるいは偏見をもって見られていることもある。 本来、化学は他の自然科学分野（物理、生物、地学）にもまたがる基本的な分野であり、また、「もの」を扱う（作る、測定する、解析をする）分野である。例えば、化学反応は、「もの」の反応で、フラスコのようなガラス器具内だけで起こるものだけではなく、宇宙、大気中から、身体の中でも起こっている。このように考えていくと日常生活は化学に囲まれていると言っても過言ではない。だから、昔から「原子、分子の本当の姿は？」「反応はなぜそのように起こる？」「この性質はどこから？」について考えてきて、一般法則を見出してきた。 この講義では、身近な題材を用いた入門用の本に沿って進めていく。今回用いる本は、アメリカで発刊された本の訳本であるため、化学のとらえ方について共通点、相違点（間違いという意味ではない）も感じてほしい。 日常生活で何気なく思っていたことを少しでも化学的に解釈できるように、化学を学ぶことを目標とする。 【学生が何を身に付けるのか】 身の回りの現象を化学的に理解するための基礎知識を身につける。入門用だからこそ、基本的な勉強は必要である。</p> <p>(2)授業の概要 身近な題材をとりあげた基礎化学の教科書に沿って進める。化学（科学）の基本の知識から始まり、身の回りの化学まで扱う。本来、化学の基礎知識なしで環境問題を扱うべきではない（環境問題について、真偽を問うことができない）。講義時間内では深く扱えないが、環境問題についても考えるきっかけとなるように進める予定である。</p> <p>(3)授業のキーワード 基礎化学、環境化学、課題発見・解決、論理的思考</p> <p>(4)授業計画 下記の講義内容を適宜修正しながら進める。 第1回 化学について（科学的方法：考える、測定する、また考える） 第2回 原子について（原子とそのなかに潜むものすべて） 第3回 すべてのもの（物質を体系づけ、分類するには？） 第4回 化学結合（原子を束ねる力を理解するために） 第5回 炭素（炭素、有機分子とカーボンフットプリント） 第6回 気体（大気中の気体とそのふるまい） 第7回 化学反応（化学変化をどう追跡するか） 第8回 水（水は人間と地球にとって不可欠なのか） 第9回 塩と水溶液（塩の性質：塩はどのように水と相互作用するのか） 第10回 pHと酸性雨（酸性雨と私たちを取り巻く環境） 第11回 原子力（核化学の基礎） 第12回 エネルギー・電力・気候変動（電力を発生させ、エネルギーを保存する新しい方法） 第13回 持続可能性とリサイクル（資源の利用・再利用のためのよりよい方法をめざして） 第14回 食べ物（私たちが口にする食品の生化学） 第15回 （未定）、授業アンケート 第16回 期末試験</p> <p>(5)成績評価の方法 授業内容の理解度を測るための小テスト（eALPS上で実施）（13回 × 2点）および期末試験（75点）で評価する。ただし、授業で扱う課題の特長に応じて、小テストの課題が課されないこともある。 授業を受けて、eALPSの動画視聴のあと、小テストを解いて出席とする。</p> <p>(6)成績評価の基準 授業で触れた内容に基づく問題が解ければ「水準にある」、授業内容を簡単な数式を用いて定量的に考えることができれば「やや上にある」、複数回の授業内容を横断する問題が解ければ「かなり上にある」、授業全体を俯瞰しなければ解けない問題が解ければ「卓越している」とみなす。</p> <p>(7)事前事後学習の内容 教科書に沿って進行するので、事前に予習が望ましい。 また、様々なメディアで化学に関するトピックが取り上げられることが多くなっている。そのような報道や記事に関心を持つようにしてほしい。記事の内容、あるいは授業で取り上げた化学が自分の生活とどのようにかかわっているのか、もっと詳しく知りたい場合、図書館で関連書籍を見つけるなどして自主的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。 授業のあと、eALPSの動画を視聴して、小テストを解いて出席とする。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 1回の講義で教科書1章を進める予定であるが、授業時間内ですべてを網羅することはできない。授業で触れられなかった部分も重要なので、必ず授業時間外学修で確認すること。 出席点は計上しないが、欠席すると1点を減ずる。20分以上の遅刻・早退は欠席とみなし、20分以内の遅刻・早退は2回で欠席1回とみなす。6回の欠席で失格になる。出席していても居眠りや私語などをしている場合、注意しなくとも減点することがある。 期末試験では、30分超遅刻した場合、受験資格がなくなるので、注意すること。 この講義では、授業時間外学習を重視しており、60時間の時間外学習が必要となる。</p> <p>(9)質問、相談への対応 水曜日の5時限目をオフィスアワーとする。学生コミュニケーションスペース（全学教育機構棟南校舎4F、ガラス張りの部屋）で対応する（状況により中止することがある）。 メールでも対応する。メールアドレスは、以下のとおりである。 akatuki@shinshu-u.ac.jp メールをする際は、マナー、エチケットと守るようにすること。わからない場合は、新入生ハンドブックを読むこと。</p>								
<p>【教科書】 キンバリー・ウォルドロン著、竹内敬人訳、教養としての化学入門（第2版）、化学同人、ISBN 9784759820782、2,500 円（税別）。 【参考書】 授業中に随時紹介する予定である。</p>								

時間割コード	G2B60134	開講年度	2022				
授業題目	ライフサイクルアセスメント入門				担当教員	中村 正行	
英文授業名	Introduction to Life Cycle Assessment						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜, 3時限	対象学生	全
講義室	共通教育 4 2 講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加付対象】学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力 ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力 【授業の達成目標】 ・環境影響指標を用いて製品のライフサイクルを定量的に評価する方法を学ぶことでライフサイクル思考ができるようになる。 ・人類の活動が地球環境に与える影響を数量的に評価する手法を学び、製品を作り・使う活動に起因する環境課題に対して、課題解決に向けた行動の実効性を判断できるようにする。</p> <p>【授業のねらい】 情報化・グローバル化が進む中で、経済活動もこれまでの生産・消費活動から脱し、地球環境を第一とした環境調和型への転換が求められています。持続可能な社会の形成のためには、環境適合性・経済合理性・社会適合性のバランスを考慮し、環境調和性を高めた製品づくりやサービスの提供が必須です。授業では地球環境問題を概観しながら、環境保全活動や環境負荷低減方法の選択において科学的な測度に基づいた意思決定ができるようになること、循環型社会におけるライフサイクル思考法を学ぶことをねらいとします。製品のライフサイクルにおける環境影響を定量的に見積もるライフサイクルインベントリ(LCI)を実施できるようになることと、それに基づき評価を行うライフサイクルアセスメント(LCA)の概要を理解し、環境課題解決に向けた行動の実効性を判断できるようにすることをねらいとします。</p> <p>(2)授業の概要 地球環境の現状と課題について概説します。人類の活動が地球環境に与える影響を客観的に定量的に評価するLCAの概要を説明します。とくに、製品やサービスの資源採取から廃棄に至るまでのライフサイクルにおける環境負荷量や環境影響量を見積もるライフサイクルインベントリについて適用例を説明します。この評価手法を修得するため、身近な製品やサービス・行動を例題としてLCIを実施する演習を行います。そして、LCI結果を用いた環境負荷低減のための意思決定について考察します。カーボンフットプリント制度や環境ラベルなどの仕組みと期待される効果を理解し、さらに、今後のLCAの新たな展開について解説します。SDGsの中からいくつかの項目を取り上げ、実効的な環境活動を行うためのLCIの役割について考察し、レポートにまとめます。いくつかのレポートについて意見交換を行います。</p> <p>(3)授業のキーワード 低炭素社会、地球温暖化、資源循環、環境配慮設計、再生可能エネルギー、環境影響評価、環境情報、環境アセスメント、バイオマス利活用、未利用エネルギー、ライフサイクル評価、環境教育、環境法、環境マネジメント、持続可能発展、SDGs、リサイクル、LCA、LCI、3R、環境配慮活動</p> <p>(4)授業計画 第1回(4/13) ガイダンス、期末レポートに向けた学習課題 第2回(4/20) 地球環境の現状(エネルギー問題) 第3回(4/27) 地球環境の現状(資源問題) 第4回(5/11) 環境マネジメントシステムにおけるライフサイクル思考 第5回(5/18) 環境ラベル、カーボンフットプリント制度の概要 第6回(5/25) ライフサイクルアセスメント(LCA)の概要 第7回(6/ 1) ライフサイクルインベントリ(LCI) 第8回(6/ 8) ライフサイクル影響評価、結果の解釈 第9回(6/15) 中間まとめとLCI演習 第10回(6/22) 低炭素化社会の構築と環境法規・環境技術 第11回(6/29) LCAの事例研究(様々な商品・サービスにおける適用例) 第12回(7/ 6) 持続可能な開発目標(SDGs)に関連して(エネルギー) 第13回(7/13) 持続可能な開発目標(SDGs)に関連して(つくる・つかう) 第14回(7/20) 期末レポート作成 第15回(7/27) レポートに関する意見交換と授業のまとめ、授業アンケート</p> <p>(5)成績評価の方法 中間まとめとして「LCIに関する演習レポート」の作成と提出と、「環境配慮活動におけるライフサイクル思考に関する期末レポート」の作成と提出は必須です。必ず出席してレポートを提出してください。レポートは講義時間内に提出してもらいます。成績は2回のレポート(50点×2回=100点)により評価します。</p> <p>(6)成績評価の基準 授業の基本的内容を理解したと認められる60点以上の受講者について単位を認定します。成績評価の基準は以下の通りとします。 ()可 C「水準にある」(60点以上70点未満): LCIの計算ができる ()良 B「やや上にある」(70点以上80点未満): LCIに基づき環境影響評価ができる ()優 A「かなり上にある」(80点以上90点未満): ライフサイクル思考に基づき有効な改善提案ができる ()秀 S「卓越している」(90点以上100点まで): 改善の提案が有効であり優れている</p> <p>(7)事前事後学習の内容 地球環境課題を理解し解決へ向けて有効な手段を選択・提案できる能力を修得するには、授業中の説明を理解するとともに、関連する科学的・工学的・社会的問題の理解が必要です。事前事後学習として必要な内容は調査研究を行うように授業中に指示します。これには、60時間以上の時間外学習が必要となります。また、事前事後学習に必要な参考書や資料・文献は、授業中に紹介します。</p> <p>(8)履修上の注意 ・レポート提出(2回)は必須です。必ず出席してレポートを作成し提出してください。レポートは講義時間内に提出してもらいます。 ・地球環境課題を理解するには、関連する科学的・工学的・社会的問題の理解が必要です。これには授業の事前・事後において自主学習の時間が必要です。日頃から情報の収集に努め、環境関連事項の動向の把握とその考察に努めてください。</p> <p>(9)質問、相談への対応 授業時間中に解説した事柄は授業中に理解することに努め時間内に質問するように心がけてください。授業や事前事後学習の際の疑問点に関する質問については、特に曜日と時間の指定はしません。担当教員は長野(工学)キャンパス所属のため、メールにて質問を受け付けます。なお、口頭での討論が必要であれば、オンラインでも実施可能です。その場合も、スケジュールを調整のためメールにて連絡をください。 メールアドレス: maxnaka@shinshu-u.ac.jp</p>							
<p>【教科書】 指定しない</p> <p>【参考書】 ・稲葉敦, 「改訂版 演習で学ぶLCA - ライフサイクル思考から, LCAの実務まで - 」, シーエーティー, 2018, 2200円 ・伊坪徳宏ほか, 「LCA概論」, 産業環境管理協会, 3800円 ・吉田敬史, 「ISO 14001:2015 要求事項の解説」, 日本規格協会, 3800円 ・鈴木敏夫, 「新・よくわかるISO環境法」, ダイアモンド社, 2300円 ・伊坪徳宏ほか, 「LIME2 意思決定を支援する環境影響評価手法」, 産業環境管理協会, 5000円</p>							

登録コード	L1130900	開講年度	2020				
担当教員	早坂 俊廣	副担当					
授業科目	哲学・思想論特論						
英文授業名	Philosophy IX						
授業タイトル	中国思想講義D						
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	人文第2講義室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力 ・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代中国で生じている課題について冷静に分析できるようになる。 ・中国の伝統思想を正確に理解し、それを現代社会分析に活用できるようになる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>現代中国社会が直面している諸問題について理解するとともに、中国伝統思想をその諸問題に照射することを通して、古今をつなぐ人間学的課題について検討します。そのことにより、中国伝統思想が、決して過去の遺物ではなく、現代の諸問題を考える上でも有効な視点を提供するものであることを理解し、柔軟な発想で物事に取り組むことができるようになることを目指します。また、レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得することも目指します。</p>						
授業の概要	<p>(1)『幸福な監視国家・中国』という書名の教科書を講読する。</p> <p>(2)中国伝統思想に関する配布プリントを参照しつつ、「自由と幸福」「監視国家」「技術と人間性」等々の問題について考察する。</p> <p>この二つの要素を織り交ぜつつ、授業は展開されます。</p>						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：(今1)自由と幸福</p> <p>第3回：(今2)信用スコアとは何か</p> <p>第4回：(古1)中国における善書の思想</p> <p>第5回：(古2)「功過格」について</p> <p>第6回：(今3)監視社会の実情</p> <p>第7回：(古3)孫子と韓非子</p> <p>第8回：(今4)アーキテクチャ・ナッジ</p> <p>第9回：(古4)古代中国の「文明」「技術」論</p> <p>第10回：(今5)民主化の問題</p> <p>第11回：(古5)伝統中国における「公」と「私」</p> <p>第12回：(今6)パターナリズムの問題</p> <p>第13回：(古6)伝統中国における「徳」</p> <p>第14回：(今7)道具的合理性について</p> <p>第15回：(古7)韓非子の思想再び</p> <p>定期試験：なし(レポート提出)</p>						
成績評価の方法	授業時のコメントペーパー5割、期末レポート5割の比率で評価します。						
成績評価の基準	<p>成績評価の基準は以下の通りです。</p> <p>成績評価の対象となる各項目について、(i)熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii)熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii)真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv)妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。</p>						
事前事後学習の内容	早めに教科書を通読すること、興味を持った内容について事後に自分で関連文献を調べて理解を深めておくことが必要です。						
履修上の注意	教科書は必ず購入してください。						
質問、相談への対応	まずは、メールでhayask@shinshu-u.ac.jpまで連絡をください。						
教科書	梶谷懐・高口康太(著)『幸福な監視国家・中国』(NHK出版新書)						
参考書	<p>湯浅邦弘編著『中国思想其本用語集』(ミネルヴァ書房)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。</p>						

登録コード	L1131200	開講年度	2018				
担当教員	早坂 俊廣	副担当					
授業科目	哲学・思想論特論						
英文授業名	Philosophy XII						
授業タイトル	中国思想講義D						
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限
講義室	人文第2講義室	読替科目	読替科目は授業一覧を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力 世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の哲学・思想を学び、その成果を未来に活かすことができるようになる 中国と日本にまたがる思想の営みを学び、広い視野をもつことができるようになる <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>東アジアの伝統思想について、その思想史的背景を学ぶとともに、その哲学的な意義を検討します。そのことにより、東アジアの伝統思想が、決して過去の遺物ではなく、現代の諸問題を考える上で有効な視点を提供するものであることを理解し、柔軟な発想で物事に取り組むことができるようになることを目指します。また、レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得することも目指します。</p>						
授業の概要	<p>「無心」について様々な角度から議論している教科書の内容を詳しく吟味していくことが基本内容となります。また、「無」「無欲」などの思想概念に関する議論を補足説明していくことで、東アジア伝統思想の中核をなす「無」の哲学について理解を深めてもらいます。</p>						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス 第2回：『老子』における「無」 第3回：『莊子』における「無」 第4回：「無心」について 第5回：鈴木大拙の「無心」論 第6回：禅思想史における「無心」 第7回：井筒俊彦の禅哲学 第8回：宗教哲学における「無心」 第9回：世阿弥の「無心」論 第10回：沢庵の「無心」論 第11回：石田梅岩の「無心」論 第12回：「無邪気・無意識・無私」 第13回：反転する「無心」 第14回：「無欲」について 第15回：議論の総括 定期試験：なし（レポート提出）</p>						
成績評価の方法	<p>授業時のコメントペーパー5割、期末レポート5割の比率で、東アジア伝統思想に関する理解度を総合的に評価します。</p>						
成績評価の基準	<p>成績評価の基準は以下の通りです。</p> <p>成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されれば「水準にある」。</p>						
事前事後学習の内容	<p>事前事後に教科書を熟読すること、興味を持った内容について事後に自分で調べて理解を深めておくことが必要です。</p>						
履修上の注意	<p>教科書は必ず購入してください。</p>						
質問、相談への対応	<p>まずは、メールでhayask@shinshu-u.ac.jpまで連絡をください。</p>						
教科書	<p>西平 直 (著) 『無心のダイナミズム 「しなやかさ」の系譜』 (岩波現代全書)</p>						
参考書	<p>溝口雄三・丸山松幸・池田知久編 『中国思想文化事典』 (東京大学出版会) 日原利国 『中国思想辞典』 (研文出版)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。</p>						

登録コード	L1132100	開講年度	2020				
担当教員	三谷 尚澄			副担当			
授業科目	哲学・思想論基幹演習						
英文授業名	Philosophy Foundation Seminar VI						
授業タイトル	哲学基幹演習						
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文501演習室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 ・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表的な哲学の問題/テキストと真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの本質を突きとめようとする視点・態度を獲得する。 ・代表的な哲学の問題/テキストを批判的に検討することを通して、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学的・思想的に重要な問題をテーマとして書かれた標準的なレベルの専門文献を読みこなす能力を習得すること。 2. 読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得すること。 3. さまざまな文献の読解を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得すること。 4. 概念的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、より奥行きをもったしかたでテキストを総合的に吟味・検討する能力を習得すること。 5. 上記課題の達成を通じて、独りよがりでない本当の意味での「考える力」を身につけ、卒業論文の作成という最終目標を達成するために必要な能力を習得すること。 						
授業の概要	<p>哲学を学ぶうえで、読み、考え、議論し、書く能力の訓練と修得が必須であることは言うまでもない。しかし、同時に、こういった哲学の技法を使いこなせるようになるためには、さまざまな問題をめぐる代表的な見解を理解し、背景の知識として蓄え、自分自身のボキャブラリーの一部として使いこなせるようになっておく、という「まねび/真似び」のプロセスもまた同等に重要である。</p> <p>このような考え方に基づいて、この授業では、(1)歴史的に重要な哲学的問題を扱った、日本語もしくは英語で書かれた標準的なレベルの文献を取り上げ、(2)それらの文献の自主的な読解を通じて、発展的な学びの土台となる堅実な知的基盤を構築すると同時に、(3)担当者の報告をもとに共同で討議することで、明晰なプレゼンテーションと建設的な対話の能力を涵養することを目指す。</p> <p>なお、本年度は、ユヴァル・ノア・ハラリの著作をとりあげ、現代世界が直面する諸問題をその具体層にわたって検討する予定である。</p>						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス 第2回：雇用 第3回：自由 第4回：平等 第5回：ナショナリズム 第6回：宗教 第7回：移民 第8回：テロ 第9回：世俗主義 第10回：無知 第11回：正義 第12回：ポスト・トゥルース 第13回：教育 第14回：意味 第15回：まとめ、授業アンケート</p>						
成績評価の方法	扱われた哲学的話題が適切に理解できているかについて、担当回での発表の内容(5割)と学期末のレポート(5割)をあわせて総合的に評価する。						
成績評価の基準	成績評価の対象となる各項目について、(i)熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii)熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii)真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv)妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。						
事前事後学習の内容	発表担当でない回についても、資料の該当箇所を熟読してくる。また、授業終了後には、授業において議論された内容について熟慮し、次回以降の議論に生かすことができるよう整理しておくこと。						
履修上の注意	各受講者には、自分の発表担当でない回にも出席し、積極的に発言することが必須の責任として要求される。						
質問、相談への対応	オフィスアワー 火曜12時15分~13時15分 を通じて対応する。						
教科書	ユヴァル・ノア・ハラリ(柴田訳)『21 Lessons: 21世紀の人類のための21の思考』河出書房新社、2019年						
参考書	授業中に指示する。						

登録コード	L1132400	開講年度	2020				
担当教員	早坂 俊廣			副担当			
授業科目	哲学・思想論基幹演習						
英文授業名	Philosophy Foundation Seminar IX						
授業タイトル	中国思想基幹演習C						
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文501演習室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・現代日本に生きる者からすれば大きく発想を異にするはずの中国の古典を読解し、その意義について判断できるようになる。</p> <p>(3)【授業のねらい】 中国哲学の基本文献を徹底的に読み込むことを通して、その思想世界を正確に深く理解することができるようになることを、まずは目指します。そして、このような形で「伝統思想」と向き合うことによって、現代社会のものの見方を特権化せず、自己をより広い地平で捉えられる視座を獲得することも目指します。さらに、自己の考えた事柄を他人に正確に詳しく伝える技能の修得も目指します。</p>						
授業の概要	かなり個性的な『老子』現代日本語訳を講読します。原文も適宜参照していきます。毎回、担当者を決めて、読解の成果を報告してもらい、それについて参加者全員で討議します。以上のことを通して、中国伝統哲学の精神を正しく深く理解できるようになり、それを他人に正確に詳しく伝えられるようになるを目標とします。						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス 第2回：老荘思想について（講義） 第3回：教科書「じょうぶな頭とかしい体になるために」に関する報告と全体討議 第4回：教科書「善」と「信」の哲学に関する報告と全体討議 第5回：教科書「女と男が身体を知り、身体を守る」に関する報告と全体討議 第6回：教科書「老年と人生の諦観」に関する報告と全体討議 第7回：教科書「宇宙の生成と「道」」に関する報告と全体討議 第8回：教科書「女神と鬼神の神話、その行方」に関する報告と全体討議 第9回：教科書「土」の矜持と道と徳の哲学に関する報告と全体討議 第10回：教科書「土」と民衆、その周辺に関する報告と全体討議 第11回：教科書「王権を補佐する」に関する報告と全体討議 第12回：教科書「世直し」の思想に関する報告と全体討議 第13回：教科書「平和主義と「やむを得ざる」戦争」に関する報告と全体討議 第14回：教科書「帝国と連邦制の理想」に関する報告と全体討議 第15回：全体討議 定期試験：なし（最終レポート）</p>						
成績評価の方法	毎回、担当者を決めて分析結果を報告してもらいます。おおむね、報告と授業中の発言50%、最終レポート50%の割合で総合的に評価します。						
成績評価の基準	<p>成績評価の基準は以下の通りです。</p> <p>成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。</p>						
事前事後学習の内容	自分の担当箇所について事前に入念に準備し、演習の結果を受けて事後に修正を加えることは、最低限行ってください。そのうえで、担当箇所以外についても、教科書・参考書を熟読玩味することが必要です。						
履修上の注意	教科書は必ず購入してください。						
質問、相談への対応	まずは、メールをhayask@shinshu-u.ac.jpに送ってください。						
教科書	保立道久『現代語訳 老子』（ちくま新書）						
参考書	ドリアン助川『バカボンのパパと読む「老子」』（角川文庫）。 その他、授業で適宜紹介します。						

登録コード	L1420100	開講年度	2022				
担当教員	茅野 恒秀		副担当				
授業科目	社会学概論						
授業タイトル							
単位数	2		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限	
講義室							
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 ・変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らもその構成員である現代社会の存立構造を理解することができる。 ・さまざまな水準の社会問題に共通する要因を把握することができる。 ・個人と社会をとりまく社会関係や相互作用のメカニズムを理解することができる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>社会学という学問の概説を通して、現代社会のさまざまな現象や問題を読み解くための基本的な視座と思考法を身につける。「社会学理論」はさまざまな現象や問題を取り上げて、その構造と変動を解き明かす。「社会学理論」はさまざまな社会学理論と方法論を取り上げて、それらによって諸現象がどのように分析できるかを示す。両方を合わせて受講することによって、社会学の全体像がわかる仕組みになっている。</p>						
授業の概要	社会学は、人間論的関心と社会構造論的関心にもとづいて、社会変動の動向や社会問題の実態の解明を進めてきた。本講義では、社会学的な認識方法や基礎概念について概説した上で、現代社会に特有の社会現象や社会問題を把握するための諸視点を紹介する。						
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨ、社会学とは何か（暫定的整理）</p> <p>第2回 社会学の基礎概念(1)：行為の主観的側面と構造的側面、間主観性とコミュニケーション</p> <p>第3回 社会学の基礎概念(2)：機能主義と構築主義、規範と逸脱</p> <p>第4回 社会学の基礎概念(3)：社会学と社会調査、当事者と観察者の視点</p> <p>第5回 親密性/親密圏(1)：ライフコースと親密性[レポート課題]</p> <p>第6回 親密性/親密圏(2)：家族とジェンダー、家族の縮小</p> <p>第7回 親密性/親密圏(3)：子育て支援をめぐる親密圏と公共圏</p> <p>第8回 共同性/コミュニティ(1)：共同体の歴史の変遷[レポート課題]</p> <p>第9回 共同性/コミュニティ(2)：都市と農村の現代的位相</p> <p>第10回 共同性/コミュニティ(3)：「共」の再構築[レポート課題]</p> <p>第11回 公共性/公共圏(1)：公共性概念の検討</p> <p>第12回 公共性/公共圏(2)：行政システム、教育システムと公共性</p> <p>第13回 公共性/公共圏(3)：公的組織の官僚制と市民的公共圏[レポート課題]</p> <p>第14回 現代の社会問題(1)</p> <p>第15回 現代の社会問題(2)、授業アンケート</p>						
成績評価の方法	期末試験(60%)と講義途中で課すレポート(40%)を対象に、社会現象や問題を規定する社会構造とその変動を解明する視点の理解を通じて、現代社会のさまざまな現象や問題を読み解くための基本的視座を獲得し、適切に説明することができるようになったかを評価する。						
成績評価の基準	1)社会学的な認識方法や基礎概念の理解、2)社会現象や社会問題に対する洞察力・思考力を身につけ、提出されたレポートや期末試験において、それらの説明や考察の正確さが認められ、十分な能力涵養が達成されれば「卓越している」と評価する。以上の項目のどちらかに卓越さが欠ける場合には「かなり上にある」、以上の項目の双方に妥当性が認められ、いずれかに秀でる点がある場合は「やや上にある」、総合的に妥当性が認められる場合は「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	毎回の授業で、参考書や参考URLを示し、予習しておくべき内容を指示する。各回の授業終了後には、使用した教材やパワーポイントが、eALPSで閲覧可能であるので、事後学習に活用されたい。 とくに、1)社会学の基礎概念に関しては社会学事典等で学習すること、2)社会学史や(高校公民レベルの)思想史に関しては新書レベルの読み物が数多く出ているので事前事後学習に位置づけること、3)日ごろから新聞や雑誌、インターネットで社会問題や論壇に関して情報収集を行うこと。						
履修上の注意	教科書は社会学の重要概念、命題集を採用している。教科書の構成に沿って授業を進めるわけではなく、概念や命題の説明を参照するために用いる。						
質問、相談への対応	講義時には質問用紙を定期的に配布するので、質疑や感想などを積極的に提起してほしい。 オフィスアワー(前期は水曜昼休み)に担当教員の研究室を訪れ、授業時間外に質問・相談を行うことができる。授業終了後に口頭で、またはメールで事前予約されたい。メールでの質問・相談に対する返答も随時行うが、受講者全員に共有することが有益と判断される場合には、授業時間中に返答を行う場合もある。 メールアドレスはchino[at]shinshu-u.ac.jp						
教科書	友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編,2017,『社会学の力』有斐閣。						
参考書	<p>ジグムント・バウマン、ティム・メイ,2016,『社会学の考え方(第2版)』ちくま学芸文庫。</p> <p>ピーター・バーガー,2017,『社会学への招待』ちくま学芸文庫。</p> <p>C.ライト ミルズ,2017,『社会学的想像力』ちくま学芸文庫。</p> <p>筒井淳也,2015,『仕事と家族』中公新書。</p> <p>山下祐介,2021,『地域学入門』ちくま新書。</p> <p>細谷昂,2021,『日本の農村』ちくま新書。</p> <p>吉原直樹,2019,『コミュニティと都市の未来』ちくま新書。</p> <p>諸富徹,2018,『人口減少時代の都市』中公新書。</p> <p>刈谷剛彦,2009,『教育と平等』中公新書。</p> <p>中澤渉,2018,『日本の公教育』中公新書。</p> <p>本田由紀,2020,『教育は何を評価してきたのか』岩波新書。</p> <p>この他、講義中に随時紹介する。</p>						

登録コード	L1830200	開講年度	2021				
担当教員	豊岡 康史		副担当				
授業科目	東洋史特論						
授業タイトル	中国ナショナリズム論						
単位数	2			講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室							
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多面的に判断することができる受容力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代東アジアの歴史的経緯についての根拠のないイメージを、十全に論難できるようになる。 ・安易に言及されがちな他国のナショナリズムに関わる、政治・社会的な背景を冷静に分析できるようになる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18・20世紀中国における国際関係や国家観をめぐる政治思想の変遷について、政治史、社会史、国際関係史などの展開をふまえて理解する。 						
授業の概要	現代中国において、ナショナリズムはしばしば軍事力増強と結びついて表象される。諸外国に侵略されないだけの力を誇示することが、国家の威信を表すというのである。このような側面を持つ「愛国主義」の思想は、近年あらわれたものと考えられがちだが、実際には18世紀後半に歴史的な淵源があり、国際関係や、社会構造の転変のなかで揺れ動きながら、かたちづくられてきた。本講義では、近代中国の国家観変容の歴史を紹介し、昨今問題となりがちなナショナリズムがどのような形で浮上してくるのかを考えたい。						
授業計画	<p>第1回：「文の中国、武の日本」：20世紀日本の中国認識</p> <p>第2回：中華は如何にあるべきか（1）：古代中国の国際政治思想</p> <p>第3回：中華は如何にあるべきか（2）：膺懲する中華＝大明</p> <p>第4回：中華は如何にあるべきか（3）：中華を守る天朝＝ダイチン（大清）</p> <p>第5回：天朝の崩壊／中国の出現：19世紀中葉の転換</p> <p>第6回：未完の改革思想：『資政新篇』と太平天国</p> <p>第7回：新標準としての『万国公法』：夷務から洋務へ</p> <p>第8回：「中体西用」と「伝統」のあいだ：近代化と伝統のバランス</p> <p>第9回：変質する朝貢冊封関係：「属国にして自主」という不思議</p> <p>第10回：日本に学ぶ：「自強」と「变法」の論理</p> <p>第11回：キリスト教は何故に敵視されるか：義和団の論理</p> <p>第12回：辮髪を切り落とす：民族感情と近代化</p> <p>第13回：「反日」の出現：一次大戦後のナショナリズム</p> <p>第14回：国恥と勝利のあいだ：20世紀前半の「記念日」制定</p> <p>第15回：まとめ 授業アンケート</p>						
成績評価の方法	2週に1度、eAlps上でコメントの提出を求める。コメントには、質問を記入すること。感想のみの場合は評価の対象としない。なおコメントに、すでに講義で触れた内容そのままの質問があった場合、当該回の評価は著しく下がるので注意すること。コメントにはすべて返答する。返答された内容を踏まえていない場合も、評価は著しく下がる。また、小テストをeAlps上で3回（不定期）行う。いずれも過ぎ及しての入力は受け付けない。						
成績評価の基準	<p>コメントの評価基準</p> <p>1) 講義内容を踏まえていること、2) 内容の理解に資するような疑問を挙げていることの二点を基準として毎回5点満点で採点する。</p> <p>成績評価の基準</p> <p>2・15回までの合計7回分積み重ねたもの（70％）と不定期で行う持ち込み可の小テスト3回（30％）をもとに東アジア世界の歴史的構造変動にかかわる理解についての評価を行う。</p> <p>小テストで概ね及第点をとり、内容を踏まえたコメントを提出しているものは、「その水準にある」といえる。</p> <p>小テストで概ね正解し、内容を踏まえたコメントを提出しているものは「やや上にある」といえる。</p> <p>小テストですべて正解し、内容を踏まえたコメントを提出しているものは「かなり上にある」といえる。</p> <p>小テストで全て正解し、内容を踏まえて当該機の歴史的展開について理解に資するコメントを提出しているものは「卓越している」といえる。</p>						
事前事後学習の内容	講義は一回ごとに完結するが、その内容は別の回の内容と関連している。配布レジュメを利用し、事後学習によって全体像をつかむこと。下記参考書及び毎回紹介する参考文献を読み込むこと。また、コメントペーパーへの回答はeAlpsにアップロードするので、適宜確認すること。						
履修上の注意	毎回、講義内容についての質問などを記したコメントペーパーの提出を求め、次の講義内でできる限り回答する。またコメントペーパーの内容に応じて講義内容と調整する。積極的な参加を期待したい。						
質問、相談への対応	e-Alpsでの入力内容についてはすべて返答する。また必要に応じてtoyooka@shinshu-u.ac.jpに連絡すること。						
教科書	指定しない。資料を毎回配布する。						
参考書	<p>岩井茂樹『朝貢・海禁・互市：近世東アジアの貿易と秩序』（名古屋大学出版会、2020年）</p> <p>岡本隆司『属国と自主のあいだ』（名古屋大学出版会、2004年）</p> <p>岡本隆司『馬建忠の中国近代』（京都大学学術出版会、2007年）</p> <p>岡本隆司『近代中国史』（ちくま新書、2013年）</p> <p>小野寺史郎『国旗・国歌・国慶：ナショナリズムとシンボルの中国近代史』（東京大学出版会、2011年）</p> <p>小野寺史郎『中国ナショナリズム：民族と愛国の近現代史』（中公新書、2017年）</p> <p>川島真『中国近代外交の形成』（名古屋大学出版会、2004年）</p> <p>川島真『近代国家への模索』（岩波新書、2010年）</p> <p>白石隆、ハウ・カロライン『中国は東アジアをどう変えるか』（中公新書、2012年）</p> <p>平野聡『大清帝国と中華の混迷』（講談社、2007年）</p> <p>吉澤誠一郎『愛国主義の創成』（岩波書店、2003年）</p> <p>吉澤誠一郎『清朝と近代国家』（岩波新書、2010年）</p> <p>渡辺浩『東アジアの王権と思想』（東京大学出版会、1997年）</p> <p>『清朝とは何か』（藤原書店、2009年）</p>						

登録コード	L2120100	開講年度	2021				
担当教員	伊藤 加奈子			副担当			
授業科目	中国語学概論						
授業タイトル							
単位数	2			講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文212講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・現代中国語の持つ言語的性格、日本語の違いについて考えます。</p> <p>(3)【授業のねらい】 現代中国語の基本的な文法・語彙にかかわる特徴について、具体的な理解を得て且つ全面的に把握することを目標とします。毎回の授業での蓄積を通じて、授業目標を達成します。</p>						
授業の概要	現代中国語の様々な特徴について毎回の授業のテーマに則った資料を利用しつつ授業を進めます。授業終了後にはその理解度を測る小課題を出します。授業内容と小課題、そして期末レポートにより全体の理解度を測ります。						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス 第2回：ピンインとは何か、英語アルファベット発音とは何が違うか 第3回：ピンインと注音字母 第4回：中国語の人称代名詞、親族関係・呼称表現の特徴 第5回：中国語の挨拶の特徴 第6回：数の表現に見られる特徴 第7回：数詞と量詞 第8回：外来語をどう漢字で表すか 第9回：擬音語・擬態語を漢字でどう表すか 第10回：語構造と文構造のつながり 第11回：成語の存在感 第13回：中国語の言語遊戯 第14回：中国のボディランゲージ 第15回：まとめ、授業アンケート</p> <p>以上は目安であり、授業の進行状況に応じて適宜調整する可能性があります。</p>						
成績評価の方法	毎回の授業参加と小課題（5割）、期末レポート（5割）にて評価します。						
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・卓越している：現代中国語の基本的な文法・語彙知識を得て、ポイントとなる文法項目を自ら指摘して的確に説明でき、その上で更に不明な点を発見指摘することができる。 ・かなり上にある：現代中国語の基本的な文法・語彙知識を得て、ポイントとなる文法項目を自ら指摘して的確に説明できる。 ・やや上にある：現代中国語の基本的な文法・語彙知識を得て、その特徴を的確に説明することができる。 ・その水準にある：現代中国語の基本的な文法・語彙知識を得て、その特徴を説明することがある程度できる。 						
事前事後学習の内容	毎回の授業後には復習も兼ねた小課題を出します。小課題の提出がないと授業出席とは見なさないため、忘れずコンスタントに提出してください。						
履修上の注意	第二外国語として中国語を履修していない学生も受講可能ですが、小課題の提出にはパソコンによる中国語入力も必要になりますので、それを習得する労を厭わないようにしてください。 中国語母語話者も勿論受講生として歓迎しますが、語学的な観点から母語を見つめ直すことのできる人を望みます。						
質問、相談への対応	毎週火曜日12：30～13：20のオフィスアワーでは人文学部棟2階で行われている中国語サロンにいます。その他の日時でも、授業以外の研究室にいる時には対応できますので、気軽にメールで問い合わせてください。伊藤の授業担当時限は人文学部・人文科学研究科・共通教育シラバスにて確認してください。 メールアドレス：itokana@shinshu-u.ac.jp						
教科書	資料を配布します。						
参考書	『知ってるつもり中国語 「同じ漢字」が誤解のモト』上野恵司(著)、アスキー新書、2,308円						

登録コード	L2130800	開講年度	2020				
担当教員	氏岡 真土		副担当				
授業科目	中国語学・中国文学基幹演習						
英文授業名	Chinese Linguistics & Literature : Basic Seminar						
授業タイトル	中国語学・中国文学基幹演習						
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文資料室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講生は意欲的な取り組みによって、問題点を明らかにし、議論し、結論を出す力を養うことができる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>古典を主な対象として、さまざまな角度から； 問題点を明らかにし、議論し、結論を出す力を養ってゆきましょう。 毎回の授業での蓄積を通じて、授業目標を達成する。</p>						
授業の概要	交代で担当者が資料を作成し、それをもとにテキストを検討します。 また各自の問題意識に即して、色々な方向に考察を進め、発表する時間も設けます。 担当者以外の人も毎回、質疑応答や意見交換のかたちで授業に参加することは勿論です。						
授業計画	1) 韻律の検討（「送孔巢父 兼呈李白」七古） 2) 韻律の検討（「奉贈韋左丞丈 」「五古） 3) 韻律の検討（「高都護<ソウ>馬行」七古） 4) 韻律の検討（「同諸公登慈恩寺塔」五古） 5) 韻律の検討（「兵車行」七古） 6) 内容の検討（「送孔巢父 兼呈李白」七古） 7) 内容の検討（「奉贈韋左丞丈 」「五古） 8) 内容の検討（「高都護<ソウ>馬行」七古） 9) 内容の検討（「同諸公登慈恩寺塔」五古） 10) 内容の検討（「兵車行」七古） 11) 発展的考察（「送孔巢父 兼呈李白」七古） 12) 発展的考察（「奉贈韋左丞丈 」「五古） 13) 発展的考察（「高都護<ソウ>馬行」七古） 14) 発展的考察（「同諸公登慈恩寺塔」五古） 15) 発展的考察（「兵車行」七古）						
成績評価の方法	平常点（毎回の授業への参加度。「授業の概要」参照）。						
成績評価の基準	1. 先行研究の咀嚼 2. 妥当かつ独自性ある見解の提示 3. 積極的な参加 以上の諸点を等分し、毎回の授業における達成度の累計によって、総合的に判定します。						
事前事後学習の内容	1. 上述の諸点に留意して予習し； 2. 授業によって必要事項を明確に把握し； 3. それを次の予習に生かすことが、すなわち復習です。						
履修上の注意	中国語学・中国文学分野の学生は、必修。 初回の授業で、スケジュールを決めます。 あらかじめ教科書に目を通し、分担希望箇所を決めておくこと。						
質問、相談への対応	平日の日中できるかぎり随時、歓迎します。詳しくは授業で。						
教科書	黒川洋一『杜甫詩選』（岩波文庫、700円+税）。						
参考書	授業時に適宜、紹介します。						

登録コード	L2220100	開講年度	2022				
担当教員	磯部 美穂		副担当				
授業科目	ドイツ言語文化概論						
授業タイトル	ドイツ語史						
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限	
講義室	人文501演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の物や事柄を客観的または批判的に見ることができるようになる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>本授業では、ドイツ言語文化の成り立ちを概説し、言語や文化史に対する学問的視点・理解を養うことを目標としています。具体的には、ドイツ語先史、成立過程から中世のドイツ語への変遷を歴史言語学的観点と社会言語学的観点から概観し、言語と社会・文化との関わりに対する理解を深め、ドイツ語学・ドイツ文学研究に関する基礎的な知識と基本的な思考方法の習得を目指します。</p>						
授業の概要	教科書に須澤通・井出万秀著『ドイツ語史 社会・文化・メディアを背景として』（郁文堂）を使用します。ドイツ語の成立に至るドイツ語先史、文字記録の始まる初期ドイツ語に関する、これまでの研究成果を紹介し、現代のドイツ語への発展過程を概説していきます。						
授業計画	<p>ドイツ語の成り立ちを理解するため、現代のドイツ語を巡る話題を概観した後に文字記録の始まる初期のドイツ語、中世のドイツ語、近世のドイツ語に関して、それぞれの時代における文化的社会的背景を概説します。ドイツ言語文化圏の形成と現代ドイツ語への発展過程との相関関係を探りながら、講義形式で授業を進めていきます。</p> <p>第1回 ガイダンス 現代のドイツ語（ドイツ語を巡る話題）</p> <p>第2回 現代のドイツ語（標準ドイツ語について）</p> <p>第3回 現代のドイツ語（ドイツ語の地域語）</p> <p>第4回 現代のドイツ語（ドイツ語の文法化と正書法）</p> <p>第5回 初期のドイツ語（写本・伝承文化から印刷技術の発展まで）</p> <p>第6回 初期のドイツ語（文字記録のはじまり）</p> <p>第7回 初期のドイツ語（初期ドイツ語の文献）</p> <p>第8回 中世のドイツ語（中世の社会）</p> <p>第9回 中世のドイツ語（宮廷文化と恋愛抒情詩）</p> <p>第10回 中世のドイツ語（騎士文化と宮廷叙事詩）</p> <p>第11回 中世のドイツ語（都市の発達と実用文書）</p> <p>第12回 近世のドイツ語（メディアの転換）</p> <p>第13回 近世のドイツ語（ルターのドイツ語）</p> <p>第14回 近世のドイツ語（書きことばの統一）</p> <p>第15回 まとめ、授業アンケート</p> <p>時代別に小レポートを提出してもらいます。</p>						
成績評価の方法	期末試験60%、小レポート40%の比率で総合的に言語や文化史に対する学問的な理解度を評価します。						
成績評価の基準	小レポートで授業内容の要点が的確にまとめられ、それと関連した自らの意見を端的に述べられていればやや上にある。期末試験において、ドイツ語史の重要な項目を十分に理解した上で自らのことばで説明ができていればかなり上にある。講義内容を十分に理解し、そこから新たな問題提起ができれば卓越している。						
事前事後学習の内容	参考図書を読み、予め授業内容を理解しておくことが望ましい。 授業後は、再度、授業用スライド、参考図書を熟読し、理解を深めること。						
履修上の注意	ドイツ語の基礎知識があることが望ましい。 無断欠席は認めません。						
質問、相談への対応	メールにて対応します。メールアドレス：isobe@shinshu-u.ac.jp						
教科書	適宜、ドイツ語の文献から参考となる部分を抜粋し、要約したプリント等を配布。						
参考書	Besch, Werner/Wolf, Norbert Richard: Geschichte der deutschen Sprache. Berlin. 2009. Ernst, Peter: Deutsche Sprachgeschichte. Korrigierter Nachdruck Wien 2006 (= UTB Basis 2583) 須澤通・井出万秀『ドイツ語史 社会・文化・メディアを背景として』（郁文堂）2009年。 この他、授業中に適宜、紹介する。						

登録コード	L2220200	開講年度	2022				
担当教員	葛西 敬之		副担当				
授業科目	ドイツ言語文化概論						
授業タイトル							
単位数	2		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限	
講義室	人文第4講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多面的に判断することができる受容力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・おそらく多くの受講生にとって異質なものを多分に含む外国文学を、歴史・文化的背景とともに解釈し内面化することで、ある事象に対してより多面的に思考することができるようになる。</p> <p>(3)【授業のねらい】 文学史を学ぶということは、ただ有名な作品のリストを覚えるのではなく、その都度の社会・文化的背景を併せて理解するということです。そのような形で文学史を扱いながら、ドイツ語圏文学・文化についての基礎的な知識及び、更なる理解への足掛かりとなるような思考・表現方法の獲得をめざします。</p>						
授業の概要	17世紀から現代まで、必要な文化的・歴史的背景を解説し、様々な文学作品の意味を考察します。また適宜、参考資料も用い、文化と文学の関係をより深く考察します。同時に作品の抜粋を日本語及びドイツ語で取り上げ、具体的に説明します。						
授業計画	<p>ドイツ語圏近現代文学を、文化的・社会的背景を含めて解説します。</p> <p>第1回 導入 第2回 ドイツの歴史 第3回 神なき時代のドイツ文学 第4回 憧れに彩られた幻の故郷「古代ギリシア」 第5回 ドイツ文学の近代 第6回 異国から見たドイツ 第7回 翻訳というジャンル 第8回 批評文学の系譜 第9回 幻想文学vs推理小説 第10回 反省の達人ー戦後・現代ドイツの文化史 第11回 戦争とドイツ文学 第12回 検閲と焚書 第13回 ギムナジウムと文学 第14回 音と言葉 第15回 ドイツ文学恋愛事情、授業アンケート</p> <p>(受講生の関心に応じて扱うテーマが多少変更することがあります)</p>						
成績評価の方法	授業後に毎回提出するリアクションペーパー50%、期末レポート50%の比率で総合的に、ドイツ語圏文学・文化についての理解度を評価します。						
成績評価の基準	リアクションペーパーには、各授業の初めに設定される問いへの答えを書いてもらいます。ドイツ文学の作品を参考文献を用いながら成立背景や特徴、解釈について論じる期末レポート(50点満点)においては、45点以上で卓越している、40点以上でかなり上にある、35点以上でやや上にある、30点以上でその水準にある、とします。						
事前事後学習の内容	ドイツ語圏の歴史を復習しておくこと。 指定した作品や教科書の範囲を事前に読んでおくこと。						
履修上の注意	教科書を購入していることを前提として進行します。 ドイツ言語文化概論 を履修していなくても構いません(その場合ものに を履修することをお奨めします)。 ドイツ語文法の知識が無い方でも履修可能です。						
質問、相談への対応	オフィスアワー(水曜日12時10分から12時50分)に受け付けます。 メールでも受け付けます。メールアドレスは教場にて指示します。						
教科書	畠山寛ほか編著『ドイツ文学の道しるべ ニーベルンゲンから多和田葉子まで』ミネルヴァ書房、2020年、2800円(税別)						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・手塚富雄、神品芳夫著『増補 ドイツ文学案内』岩波書店、2006年 ・柴田翔編著『はじめて学ぶドイツ文学史』ミネルヴァ書房、2003年 ・宮田真治編『ドイツ文化55のキーワード』ミネルヴァ書房、2015年 						

登録コード	L2430100	開講年度	2021				
担当教員	伊藤 盡		副担当				
授業科目	英語学特論						
授業タイトル	古北欧語と英語との比較言語学研究						
単位数	2		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・4時限	
講義室	人文204 演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる受容力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・古北欧語の格言や北欧神話の文献を読み、背景となる文化を理解することができるようになる</p> <p>(3)【授業のねらい】 あらゆる英語に対して、文献学的あるいは通時的アプローチによって理解し、分析することで、英語を正しく理解するだけでなく、隠された意味内容を発見するための知的好奇心を養います。 通時的英語学の基礎を学び、どんな疑問があっても、それをとことん目指す姿勢を学びます。具体的な知識を取り入れ、それが自分を取り巻く現代英語とどのように関わるかを発見し、新たな視点で英語をみるができるようになります。</p>						
授業の概要	<p>(A)古北欧語で書かれたテキストを読み、北欧語と古英語との言語接触の状況を踏まえて現在に至る英語の基礎がどのように築かれたかを通時言語学的、社会言語学的手法から演習形式で考え、理解を深め、言語学的手法で考えることができるようになります。</p> <p>(B)授業では、受講生は語彙集に基づいて担当箇所を読み、古北欧語と古英語の類似性や差異について考えをまとめ、意味を解説する。発表者以外の受講生は、他人の発表を聴きながら、多角的な視点から質問やコメントを提供する。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション：テキストの解説：授業の進め方を理解する。</p> <p>第2回：イントロダクション：作品解説</p> <p>第3回：Strophe 1-12の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第4回：Strophe 13-27の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第5回：Strophe 28-41の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第6回：Strophe 42-53の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第7回：Strophe 54-68の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第8回：Strophe 69-83の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第9回：Strophe 84-96の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第10回：Strophe 97-110の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第11回：Strophe 111-122の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第12回：Strophe 123-136の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第13回：Strophe 137-146の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第14回：Strophe 147-157の言語の解釈と解説の発表</p> <p>第15回：Strophe 158-164の言語の解釈と解説の発表：最後に授業アンケートを実施する予定です</p>						
成績評価の方法	授業の中で、担当箇所の理解の発表を60%、期末レポートを40%で、総合的に評価します。						
成績評価の基準	<p>担当箇所の語彙を語彙集ですべて調べた場合、「水準にある」と評価します。</p> <p>担当箇所の語彙の意味を理解した上で、文の内容を表面的に理解する場合、「やや上にある」と評価します。</p> <p>担当箇所の文の内容を註などを用いて理解を深めている場合、「かなり上にある」と評価します。</p> <p>担当箇所の文の内容を、註だけでなく、先行研究も含めて参照して理解を深めている場合、「卓越している」と評価します。</p> <p>期末レポートも同様に 表面的な内容を理解している場合、「水準にある」 註を使って、典拠を明らかにしながら理解を示す場合、「やや上にある」 翻訳などを使って、典拠を明らかにしながら、オリジナルの自説を示す場合、「かなり上にある」 先行研究を批判的に理解しつつ、学問的批評も含めて自説を示す場合、「卓越している」と、それぞれ評価する</p>						
事前事後学習の内容	<p>事前学習は、語彙集を使って予習をします。</p> <p>事後学習は、註やインターネットの情報を使って、授業内の知識を補足します。</p>						
履修上の注意	古北欧語の基本的な文法について知らない人にも教えるので安心してください。ただし、語彙集を使って予習は必ずしてください。						
質問、相談への対応	<p>質問は、基本的にe-ALPS内のフォーラムで受け付けます。</p> <p>それ以外の質問・相談はオフィスアワーで対応します。</p> <p>オフィスアワーは、木曜日の昼休み(12:10-13:00)です。研究室の場所は人文棟4階英語学資料室の前です。</p> <p>なお、授業開始後は、sluckを利用する予定です。</p>						
教科書	David A. H. Evans, ed., Havamal, ISBN 9780903521192, Viking Society for Northern Research, 2000.						
参考書	Anthony Faulkes., Havamal, Glossary and Index., ISBN 978-0903521208, Viking Society for Northern Research, 1987.						

登録コード	L2431200	開講年度	2018				
担当教員	伊藤 盡			副担当			
授業科目	英語学基幹演習						
英文授業名	Basic Seminar on English Linguistics						
授業タイトル	Demythification of Language Myths 2						
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限
講義室	人文204演習室	読替科目	読替科目は授業一覧を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素ノ : 全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 ・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力 ・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語に関する「神話」と呼ばれる思い込みを実証的に凌駕し、脱神話を図れるようになる ・言語学的知見をもとに、現状を客観的に判断し、バランスのとれた見解を構築できるようになる ・様々な文化や見解を総合的に理解し、論理的な思考によって受け入れられるようになる ・要約や批評をとおして、他者の意見を論理的・客観的に理解できるようになる ・英語で書かれた内容を理解し、日本語との対照性も含めて自らの批評を述べられるようになる <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>言語の研究を行うための、客観的かつ論理的・科学的な視点を学生が獲得することが狙いです。 言語の発話や使用は、基本的に無意識的な行為・行動であり、それらを客観的に観察し、分析するためには、メタ言語という言語を使用しながら、適切な視座に立たなければなりません。この演習では、そのような視座から言語を観察するための練習を行います。</p>						
授業の概要	<p>この授業はセットテキストを用いた演習として、以下の4つのことを行います：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) セットテキストの読解により、一般的に信じられてきたこと、考えられてきた「言説」を、言語学的な視点で客観化/客体化し、英語学の基礎的な分析によって考える練習をします。 2) 英語で書かれた短い論説を自分の言葉で要約する練習をします。 3) 英語で書かれた短い論説を自分の言葉で批評する練習をします。 4) 他人の議論に対して、疑問を提示し、より高次の議論に高める練習をします。 						
授業計画	<p>1回：Introduction: 発表順の決定 + bibliographyの説明 2回：Myth 11: How Can a Language Be Beautiful? Summary&Criticism発表 3回：Myth 12: Can a Grammar Be Bad or Good? Summary&Criticism発表 4回：Myth 13: A Linguistic Racial Prejudice? Summary&Criticism発表 5回：Myth 14: Ain't There No Logical Double Negatives? Summary&Criticism発表 6回：Myth 15: Is a Standard Language Made by TV? Summary&Criticism発表 7回：Myth 16: 'Is It ME,' or 'Is It I' That Thinks? Summary&Criticism発表 8回：Myth 17 (1): What Are American Dialects? Summary&Criticism発表 9回：Myth 17 (2): New Yorkers' English Summary&Criticism発表 10回：Myth 18: Do You Speak Language Quickly? Summary&Criticism発表 11回：Myth 19: Australians' Languages Summary&Criticism発表 12回：Myth 20: What is Your Dialect? Summary&Criticism発表 13回：Myth 21: Is American English Being Ruined? Summary&Criticism発表 14回：Follow-up the Discussions これまでの議論のフォロー 15回：授業総括と反省を行います</p>						
成績評価の方法	授業内の発表の内容(30%)と議論の質(70%)を評価対象にします。つまり、授業内で議論を行わない場合、その時限でのその学生の評価は0になります。						
成績評価の基準	<p>以下のように評価します：</p> <p>発表内容に論拠が正しく示されている場合は「水準にある」 発表内容に加えて、論拠を示しながら議論する場合は「やや上にある」 発表内容と議論の内容を踏まえた上で根拠を示しながら、議論を進める論点を提示する場合「かなり上にある」 発表内容と議論の内容を踏まえた上で、根拠を示しながら、議論の解決に導く論点を提示する場合「卓越している」</p>						
事前事後学習の内容	<p>事前学習は、発表者同士のコミュニケーションを取りつつ、セットテキストの内容を完全に把握するために参考図書を読みます。 発表の準備段階でアポを必ずとって、教員と話し合いをしながら発表内容を洗練させていきます。 事後学習は、総括に向けて、発表資料を整理します。</p>						
履修上の注意	無断欠席は決して認めません：理由なく発表を欠席する場合はペナルティとなります。発表の際には発表原稿と資料の提示を行います。						
質問、相談への対応	質問は、メールによってアポイントメントをとってください。基本的に複数学生に研究室で対応します。						
教科書	Bauer, Laurie and Peter Trudgill, eds. Language Myths. London: Penguin, 1998; ISBN 978-0-140260236						
参考書	初回にBibliographyを学生諸君が用意しますので、それを参考にします。						

登録コード	L2520100	開講年度	2022				
担当教員	杉野 健太郎			副担当			
授業科目	英語文学概論						
授業タイトル	Introduction to Literature in English I						
単位数	2			講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限
講義室	人文第2講義室						
授業のねらい	<p>(1) 授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 ・変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力 ・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる受容力 ・情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー ・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 ・領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力 <p>(2) 【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語文学を通して、思索ができるようになる ・英語文学を通して、変容する社会を冷静に分析し批判できるようになる ・英語文学を通して、過去の英知の批判的継承ができるようになる ・英語文学を通して、異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断できるようになる ・英語文学を通して、情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシーを持つようになる ・英語文学を通して、他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシーが身につく ・英語文学を通して、グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力が身につく ・英語文学を通して、領域横断的な事柄に対する問題解決ができるようになる <p>(3) 【授業のねらい】</p> <p>英米文学文化にまだ余りなじみのない人がこれから英米文学文化を受容し研究していくための基礎を形成します。具体的に言えば、英米を中心とする英語圏文学・文化の基礎知識（リテラシー）を身につけることが基本的なねらいです。また、受容力だけでなく、英米の文学・文化に関する初歩的思索研究力を身につけることを第二のねらいとします。この授業は、イギリスとアメリカの文学と歴史、地理、音楽を中心にします。</p>						
授業の概要	<p>では、イギリスとアメリカの文学と歴史、地理、音楽について学びます。また、文学・文化に関する基礎知識（リテラシー）だけではなく初歩的思索研究力（問題を発見し思索し分析し考えをまとめられるようになること）を身につけるために、文学・文化事項に関して個人プレゼンを行います。人数によっては、個人プレゼン担当以外の方はレポートを作成します（受講者の数などによって決めます）。また、できる限り英語で読み、見て、英語力も養成します。</p>						
授業計画	<p>第1週 オリエンテーション + イギリスとは何か・交通</p> <p>第2週 英語と英語圏について・イギリスの歴史と文学（1）OE・ME、17世紀</p> <p>第3週 イギリスの歴史と文学（2）18世紀 + イギリスの宗教</p> <p>第4週 イギリスの歴史と文学（3）19世紀・20世紀</p> <p>第5週 イギリスの文学リーディング 1</p> <p>第6週 イギリスの文学リーディング 2</p> <p>第7週 イギリスの音楽 + 特論 ザ・ビートルズ</p> <p>第8週 アメリカとは何か + アメリカの地理と交通</p> <p>第9週 アメリカの歴史と文学 19世紀まで</p> <p>第10週 アメリカの歴史と文学 20世紀以降</p> <p>第11週 アメリカの文学リーディング 1</p> <p>第12週 アメリカの文学リーディング 2</p> <p>第13週 アメリカの音楽</p> <p>第14週 アメリカの音楽特論 ボブ・ディラン</p> <p>第15週 まとめ、授業アンケート</p> <p>期末試験有り</p> <p>以上は計画のおおまかな概要です。初回の授業（オリエンテーション）において、詳細な計画を配布します。</p>						
成績評価の方法	試験70%、5分間スピーチまたはレポート30%（文学・文化事項に関してプレゼン）で成績評価をします（受講生の数によって調整します）。						
成績評価の基準	<p>評価ポイントは、基礎知識を身につけたかどうか、および初歩的思索研究力（問題を発見し思索し分析し考えをまとめられるようになること）を身につけたかどうかです。その度合いに応じて、評価します。卓越した基礎知識を持ち卓越した分析ができれば90点以上、すぐれていれば80点以上、やすすぐれていれば79～70点、標準的なら69～60点になります。</p>						
事前事後学習の内容	毎回、教科書の該当箇所などの教材を事前に読んで、授業後にそれを復習してください。						
履修上の注意	やむを得ぬ事情がない限り全授業に出席し、事前・事後学習を行ってください。						
質問、相談への対応	火曜日と木曜日の昼休みがオフィスアワーです（研究室は人文棟4階）。簡単な質問やアポは、授業前後またはsugino@shinshu-u.ac.jp までお願いします。						
教科書	下橋昌哉編『イギリス文化入門』（三修社、2010年）+ 杉野健太郎編『アメリカ文化入門』（三修社、2010年）+ プリント * 初回から教科書を用いて簡単な説明を行いますので持参してください						
参考書	石塚久郎編『イギリス文学入門』（三修社、2014年）、諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』（三修社、2013年） その他は教科書の文献リストを主に参照してください。また、必要がある場合は、適宜指示します。						

登録コード	L2531100	開講年度	2021				
担当教員	杉野 健太郎			副担当			
授業科目	英語文学特論						
授業タイトル							
単位数	2			講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限
講義室	人文202演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語による発表とその原稿作成を通しての、他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー ・英語による発表とその原稿作成を通しての、グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>In foreign studies of humanities, you will learn to work with literary or film texts in English, to analyze them to reach conclusions and to express them effectively in your presentation and writing. The main target of this course is set on presentation and writing.</p> <p>On successful completion of this course, students will become capable of expressing the results of your analyses effectively in English presentation, writing, and in a conference setting.</p>						
授業の概要	This is an active learning class for British & American literature, film and culture. The primary course activity is to pick a topic within the fields, make a presentation, and take part in the joint review session. Students are also highly recommended to speak in English. The eAlps and tutoring are also to be utilized efficiently.						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Writing for presentation 3. Model presentation 4. Group Tutorial 5. Group Tutorial 6. Presentation (5 minutes): sophomores 7. Joint review session 1: sophomores 8. Joint review session 2: sophomores 9. Presentation (10 minutes) 1: juniors and over 10. Presentation (10 minutes) 2: juniors and over 11. Joint review session 1: juniors and over 12. Joint review session 2: juniors and over 13. Joint review session 3: juniors and over 14. Conference 1/ (follow-up presentation) 15. Conference 2/ (follow-up presentation)、授業アンケート <p>Joint review session is around 30 to 40 minutes per presentation * During the first class, a more detailed course schedule will be decided on and distributed.</p>						
成績評価の方法	In-class activities 50% Presentation 50%						
成績評価の基準	Five criteria with stress on iv) and v): i) selecting appropriate topics within the texts, ii) consistent argumentation according to the topics, iii) significant conclusion, iv) pertinent and effective presentation, v) active participation in joint review sessions. Satisfying more than four of the criteria: S, three: A, two: B, one: C, none: D.						
事前事後学習の内容	Active learning outside of class is crucial for this course. Students are required to analyze texts or cultural phenomena, make a presentation and participate actively in the joint review sessions.						
履修上の注意	In principle, only students taking or having taken any one of the British & American literature, film and culture courses are permitted to take this course. Non-British & American Literature (Eibeibungaku) major students can be admitted, but are requested to email us desirably before the beginning of semester.						
質問、相談への対応	If you have some questions, please come and ask us after class or at our offices. Direct communication is best done over text-messaging and email chats, although e-learning is to be utilized effectively. Make an appointment to confirm our meeting. SUGINO: sugino@shinshu-u.ac.jp IIOKA: iioka@shinshu-u.ac.jp Our offices are located on the 4th floor of the Faculty of Arts (Jinbun) Building.						
教科書	Materials to be distributed						
参考書	<p>田中真紀子『英語のプレゼンテーション スキルアップ術』、研究社、2014年。 一橋大学英語科『英語アカデミック・ライティングの基礎』、研究社、2015年。 Steven Gershon. Present Yourself . Cambridge UP, 2015. *Other references will be introduced and passed out in class.</p>						

登録コード	L2531300	開講年度	2020				
担当教員	杉野 健太郎			副担当			
授業科目	英語文学基幹演習						
英文授業名	English and American Literature Basic Seminar						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	人文201 演習室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力 ・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリス文学の作品の読解を通しての、異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力 ・イギリス文学の作品に関する発表とレポートを通しての、他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】 ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】 <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイルランドのある時代のダブリンの人々の文化を理解し、それを基に自らを省み発信できるようになるでしょう。 ・英語圏とリわけ、一時期のアイルランドの多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養を身に着けることができるようになるでしょう ・英語および日本語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができるようになるでしょう <p>【授業のねらい】</p> <p>In foreign studies, you will learn how to precisely and closely read and process foreign-language texts. The aim of this course is to allow you to work with literary texts in English, to analyze them to reach conclusions, and to express them effectively in your presentation and writing.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. You shall become capable of working with relatively reader-friendly texts with precision. 2. You shall acquire basic research skills for English literature and culture. 3. You shall become capable of expressing the results of your analysis effectively in presentation and writing. 						
授業の概要	<p>James Joyce (1882-1941), an Irish-born novelist who lived most of his adult life outside Ireland, is one of the most prominent 20th century authors in the world. He contributed to modernist avant-garde movement through his representation of modern lives by innovative literary techniques such as stream of consciousness.</p> <p>Dubliners is a collection of his early fifteen short stories published in 1914. They present a naturalistic depiction of Irish middle class life in Dublin, the Irish capital, in the early years of the 20th century.</p> <p>Dubliners will be taken up in this course. The primary course activity is to analyze precisely some of the short stories, along with the instructor's explanations and class discussion. Students must read and discuss the material in class and are highly recommended to speak in English. Incidentally, this course is recommended for every student because the English itself is not very tough.</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.Orientation 2.After the Race 1 3.After the Race 2 4.Two Gallants 1 5.Two Gallant 2 6.The Boarding House 1 7.The Boarding House 2 8. Eveline 1 9. Eveline 2 10.A Little Cloud 1 11.A Little Cloud 2 12.A Little Cloud 3 13.Criticism 1 14.Criticism 2 15.Criticism 3 <p>Final exam</p> <p>* During the first class, a more detailed course schedule will be decided on and distributed.</p>						
成績評価の方法	<p>In-class activities 30%</p> <p>Exam 40%</p> <p>Short semester paper 30%</p> <p>*Attending 10 times is the minimum required for a grade.</p>						
成績評価の基準	<p>Five criteria: i) precise and close reading of text, ii) selecting an appropriate topic within the text, iii) consistent argumentation according to the topic, iv) significant conclusion, v) pertinent and effective writing or presentation. Satisfying five or four of the five criteria: S, three: A, two: B, one: C, none: D.</p>						
事前事後学習の内容	<p>Students are required to read the assigned part in advance, reviewing the previous part and the relevant materials. Pre-class assignments are given almost every time.</p>						
履修上の注意	<p>NA Any student except freshers can take this course.</p>						
質問、相談への対応	<p>If you have some questions, please come and ask me after class or at my office. Unmediated talk is desirable over text-messaging and email chats. Make an appointment to confirm our meeting.</p> <p>My office is located on the 4th floor of Faculty of Arts (Jinbun) Building. Office Hour: Tuesday and Thursday lunchtime [12:20-12:50] (other times possible by appointment). Email: sugino@shinshu-u.ac.jp</p>						
教科書	<p>James Joyce. Dubliners. Oxford World's Classics. ISBN-10: 0199536430</p>						
参考書	<p>James Joyce: A Literary Companion. McFarland Publishing. 2018. *Other references are listed up in the textbook and to be introduced in class.</p>						

登録コード	L2720100	開講年度	2022				
担当教員	中澤 光平			副担当			
授業科目	日本語学概論						
授業タイトル	日本語の音と表記						
単位数	2			講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限
講義室	人文第4講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語という身近な存在に対し、音声学や言語学の知識をもとに客観的な分析ができるようになる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>日本語には古代から現代までという時間的（歴史的）多様性と方言という空間的（地理的）多様性がある。そのように多様な日本語をどのように分析するかという視点が日本語学には必要である。この授業では、日本語の体系的、網羅的な分析を通じて日本語研究の方法論を学び、論理的な思考力を身につけることを目的とする。</p>						
授業の概要	現代日本語（共通語）を主な対象として、日本語学に関する学術的な概念・用語について解説する。単に丸暗記するのではなく、自ら問題を発見し解決するのに役立つ能動的な知の習得を目指す。内容は音声・音韻、文字・表記、語彙、文法などに分けて扱うが、相互の有機的な結び付きを意識し多角的な分析が行えるようになることを目標とする。日本語学概論 では音声言語の基礎となる音声・音韻とそれを支える表記を扱う。						
授業計画	<p>第1回 履修ガイダンス：この授業で学ぶこと</p> <p>第2回 日本語の音（1）：「音声」と「音韻」</p> <p>第3回 日本語の音（2）：母音</p> <p>第4回 日本語の音（3）：子音1</p> <p>第5回 日本語の音（4）：子音2</p> <p>第6回 日本語の音（5）：アクセント・音節・モーラ</p> <p>第7回 日本語の音（6）：イントネーションとプロミネンス</p> <p>第8回 日本語の音（7）：日本語の音韻規則</p> <p>第9回 日本語の音（8）：日本語の様々な音変化</p> <p>第10回 日本語の音（9）：日本語の音の多様性</p> <p>第11回 日本語の表記（1）：いろは歌と五十音図</p> <p>第12回 日本語の表記（2）：漢字と仮名</p> <p>第13回 日本語の表記（3）：仮名遣い</p> <p>第14回 日本語の表記（4）：ローマ字</p> <p>第15回 日本語の表記（5）：当て字・振り仮名、授業アンケート</p> <p>定期試験</p>						
成績評価の方法	課題に基づく平常点（50％）と期末試験（50％）の成績をもとに評価する。授業は無遅刻・無欠席が原則である。平常点が半分未満の場合は成績評価の対象としない。						
成績評価の基準	<p>授業内容の重要事項を不完全ながらも理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」</p> <p>授業内容の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」</p> <p>授業内容の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」</p> <p>授業内容の全体を理解したうえで自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」</p> <p>上記に至らないものは「不可」</p>						
事前事後学習の内容	授業では毎回予習、復習に相当するものとして課題を受講生に課す。授業資料や参考書をもとに各自取り組むこと。						
履修上の注意	履修上の制限は特にないが、後期開講の「日本語学概論」も継続して履修することを強く推奨する。また、「日本語史」の授業を受講する場合には、事前もしくは同時に、「日本語学概論」を受講しておくのが望ましい。概論であっても難しい内容が一部含まれる。出席するだけでは単位は出ないので、安易な気持ちで受講することのないように注意されたい。						
質問、相談への対応	できるだけ講義が終わった後に質問するように。毎回最後に問題を出すので、そのプリントに質問事項を書いてよい。またeAPLS上に質問箱を設置する。						
教科書	使用せず、毎回プリントを配布する。						
参考書	<p>沖森卓也（編著）（2010）『日本語概説』朝倉書店</p> <p>斎藤純男（2006）『日本語音声学入門 改訂版』三省堂 最新の刷の方が望ましい</p>						

登録コード	L2820100	開講年度	2022				
担当教員	中東 靖恵			副担当			
授業科目	日本語教育学概論						
授業タイトル	日本語のしくみ						
単位数	2			講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室							
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語としての日本語のしくみについて日本語教育学の観点から学び、日本語母語話者にとって無意識的な日本語知識や日本語運用を客観的に観察・考察し、意識化できるようになる。 ・null <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>日本語教育学の視点から日本語の言語学的特徴について基礎的事項や概念などを理解し、日本語を母語としない外国人に対する日本語教授の現場で活用・実践できるよう、日本語を客観的に観察・分析する力を身につけるとともに、日本語を母語としない外国人が第二言語として日本語を習得する際の様々な特徴を理解できるようにすることを目指す。</p>						
授業の概要	日本語教育学の観点から、日本語の音声・語彙・文法を中心に日本語のしくみについて基礎的事項や概念などを学び、日本語母語話者にとって無意識的な日本語知識や日本語運用を客観的に観察・考察する方法とともに、日本語を母語としない外国人が第二言語として日本語を習得する際の様々な特徴を理解する。						
授業計画	<p>第1回：音声と音声学 第2回：単音・音素 第3回：環境や時代による音変化・音のまとまりとリズム 第4回：アクセント・イントネーション・プロミネンス・ポーズ 第5回：学習者の音声と発音指導 第6回：語と語構成・文字 第7回：語の分類：語種と位相・語の意味とコーパスの活用 第8回：語の分類：品詞とオノマトペ・第二言語の語彙知識と知識の測定 第9回：第二言語の語彙習得過程と心内辞書 第10回：語と文・格と主題 第11回：活用 第12回：テンス・アスペクト・ヴォイス 第13回：方向性と恩恵・モダリティ 第14回：待遇表現とポライトネス 第15回：まとめ・授業の振り返り（授業アンケート） 定期試験（レポート）</p> <p>授業日程：8月8日（月） - 8月12日（金）</p>						
成績評価の方法	授業への参加度（受講態度・課題等）（50％）・期末レポート（50％）で総合的に評価する。						
成績評価の基準	授業に積極的に準備・参加していることに加え、レポート課題に対し、授業で学んだ基本的な概念や方法論をふまえて適切かつ論理的に論述できていれば、達成目標の「水準にある」と判断する。加えて、適切な具体例を挙げ活用しつつ考察が行われていれば水準の「やや上にある」とし、授業で学んだ事項と具体例を統合的に用いて論述できていれば水準の「かなり上にある」と判断する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、応用的かつ発展的に論述できている場合は水準を「卓越している」と判断する。						
事前事後学習の内容	授業で取り上げるテーマや課題について教科書や資料を読んでおく。授業で用いる教科書・レジュメを参考に関連分野の論文や専門書に当たり、発展的に学習を行うことを求める。						
履修上の注意	講義形式の授業だが、受講学生に意見を求める場合がある。授業の内容について自分なりの意見や考えを持ち、積極的な態度で授業に臨むとともに、他の受講生の考えにも耳を傾け視野を広げてほしい。						
質問、相談への対応	集中講義の昼休みの時間をオフィスアワーとする。オフィスアワーの訪問を希望する場合は、対面またはメールであらかじめ連絡すること。連絡先：yasue@cc.okayama-u.ac.jp						
教科書	『日本語教育学入門』（姫野伴子・小森和子・柳澤絵美著，研究社，2015年，ISBN：978-4327384715，価格2,530円） 教科書のほかレジュメ・資料を使用する。						
参考書	授業中に適宜紹介する。 （『日本語教育能力検定試験』の過去問を解きながら授業内容の復習を行うことがあります。）						

登録コード	L2830500	開講年度	2020				
担当教員	大平 幸			副担当			
授業科目	日本語教育学特論						
英文授業名	Pedagogy of Japanese as a Foreign Language:Specialized Study						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室			読替科目	読替科目は履修案内を確認すること			
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる受容力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会における、文化、言語、教育に関わる事象について、批判的に考え、新たな視点からとらえ直すことができるようになる ・多文化化する社会における日本語教育の役割について考え、自分の考えを説明できるようになる <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>本授業では、多文化化する社会において、異なる文化を持つ人々とうかがわり、どう共生していくかを日本語教育の視点から学ぶ。また、社会における言語や、教育に関わる事象について知り、新たな視点からとらえ直すことができるようになることを目指す。さらに、社会における多様な背景やニーズを持った日本語学習者と、その支援についての具体的な事例を通し、今日本語教育に何が求められているのか、自分なりに考えることを最終的な目標とする。</p>						
授業の概要	<p>本授業では、異なる文化を持つ人々とうかがわり、どう共生していくかを日本語教育の視点から学ぶ。そのため、また、日本語教育の観点から、社会における言語や、教育に関わる事象について知り、新たな視点からとらえ直すことができるようになることを目指す。さらに、社会における多様な背景やニーズを持った日本語学習者と、その支援についての具体的な事例を通し、今日本語教育に何が求められているのか、自分なりに考え、説明できるようになることを最終的な目標とする。授業においては、受講者が自ら積極的に発言し、協働的に学ぶことを重視する。</p>						
授業計画	<p>夏季集中授業である。 日程は、決まり次第キャンパス情報システムの「集中講義日程情報」に掲載する。</p> <p>第1回 履修ガイダンス / 異文化コミュニケーションとは 第2回 文化について考える 異文化間ソーシャルスキル 第3回 文化について考える 寛容性 第4回 文化について考える ステレオタイプ 第5回 言語の多様性を考える 言語バリエーション 第6回 言語の多様性を考える 待遇表現 第7回 言語の多様性を考える 複言語主義 第8回 言語の多様性を考える 言語景観 / 多言語による情報提供 第9回 日本語学習者の多様性を考える 多様な背景を持った「外国人」 第10回 日本語学習者の多様性を考える 多様なニーズをもった学習者 / 地域の日本語教室 第11回 日本語学習者の多様性を考える 年少者教育 (バイリンガリズム / 母語継承) 第12回 日本語学習者の多様性を考える 「外国人材」 / 職場の日本語教育 第13回 共生社会における日本語教師の役割を考える 第14回 共生社会における日本語教師の専門性を考える 第15回 まとめと振り返り, アンケート 定期試験 (レポート)</p>						
成績評価の方法	授業への参加度 (受講態度・課題・発表等) 30% 小テスト・リフレクション 30% 期末レポート 40%						
成績評価の基準	<p>授業に積極的に参加していることに加え、レポート課題に対し、授業で学んだ概念や理論をふまえて適切かつ論理的に論述できなければ、達成目標の「水準にある」と判断する。加えて、適切な具体例を挙げつつ考察が行われていれば「やや上にある」とし、授業で学んだ事項と具体例を統合的に用いて論述できていれば、「かなり上にある」と判断する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、応用的かつ発展的に論述できている場合は「卓越している」と判断する。</p>						
事前事後学習の内容	<p>授業で扱う内容について、あらかじめ教科書や資料を読んでおく。また、授業内容をふまえた上で、関連する資料などを調べるなどして、発展的な学習を行うことを求める。</p>						
履修上の注意	<p>授業では、授業においては、他者と協働的に学ぶ機会を設ける。積極的に発言し、意見交換を行ってほしい。また、授業で扱う「文化」「言語」「教育」に関する事例などを、自分の生きる社会のできごととして、また自分の生活と地続きの問題として捉えることを行ってほしい。</p>						
質問、相談への対応	<p>集中講義の昼休みの時間をオフィスアワーとする。オフィスアワーの訪問を希望する場合は、対面あるいはメールであらかじめ連絡すること。連絡先：s-ohira@ygu.ac.jp</p>						
教科書	<p>『異文化コミュニケーション入門ワークブック 自発学習型』(石丸暁子他、松柏社、2014) 『多文化社会で多様性を考えるワークブック』(有田佳代子他、研究社、2018) 必要に応じて資料等を配布する</p>						
参考書	<p>授業の中で適宜紹介を行う</p>						

登録コード	L2830800	開講年度	2020				
担当教員	坂口 和寛		副担当				
授業科目	日本語教育学基幹演習						
英文授業名	Pedagogy of Japanese as a Foreign Language:Basic Seminar						
授業タイトル	初級日本語教育と教科書分析						
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・4時限
講義室	人文201演習室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる受容力 ・情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育学における研究課題について理解を深め、研究の知見から、第二言語としての日本語やその教育、日本語学習者に対して多角的に分析し、理解できる。 ・日本語教育学に関する研究論文やテキストを批判的かつ分析的に精読し、理解に必要な補足情報を得ながら、テキストの意図や論理展開を正確に理解できる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>外国人学習者を対象とした日本語教科書について、取り上げられている文型や表現形式の特徴を整理し、日本語教育において重要となる文法項目や語彙項目の特徴を学ぶ。同時に、日本語教育における文法項目の扱い方や、関連する文法概念・カテゴリーについて深く理解する。そして、日本語教育の実践・研究の基礎となる専門的な日本語知識を身につける。本授業を通じ、日本語教育の対象となる文法・語彙を専門的な観点や知識を基に観察し分析できること、そして日本語教材を正確かつ批判的に読み解けることを、研究リテラシーとともに向上させていく。授業目標については、各回の授業内で行う発表や質疑応答、協働作業を通じて達成する。</p>						
授業の概要	本授業では、外国人学習者を対象とした初級日本語教科書を分析、背後にある目的や意図をふまえ、扱われている日本語項目の特徴を把握する。特に、指導・学習項目である日本語文法や語彙の言語的特徴、配列方法とその意図に着目して教科書分析を行う。また、受講学生自身による教科書分析の成果をもとに、日本語教育学と日本語学を関連づけた演習を行う。それにより、初級日本語教育の指導・学習内容に対する理解を深め、外国人への日本語支援や研究論文読解などに必要な能力と専門知識を身につける。						
授業計画	<p>授業では、文法シラバスに基づく代表的な日本語教科書を選定し、受講学生がそれを分担して各課の内容の解説を行う。それをふまえて、日本語教育における文法・語彙の扱い方を中心に、討論を行う。日本語教科書は各回の授業で複数の課を取り上げるが、およそ以下に挙げるようなテーマに沿って授業を進めることとなる。</p> <p>第1回：履修ガイダンス / 日本語教育と日本語教材 第2回：日本語教科書とシラバス 第3回：日本語教科書の構成 第4回：初級日本語教科書の特徴1（文法項目） 第5回：初級日本語教科書の特徴2（語彙項目） 第6回：初級日本語教科書の特徴3（表現文型・表現形式） 第7回：文法シラバスに基づく日本語教科書の分析1（項目配列） 第8回：文法シラバスに基づく日本語教科書の分析2（名詞文・形容詞文） 第9回：文法シラバスに基づく日本語教科書の分析3（活用） 第10回：文法シラバスに基づく日本語教科書の分析4（文体） 第11回：文法シラバスに基づく日本語教科書の分析5（テンス表現） 第12回：文法シラバスに基づく日本語教科書の分析6（アスペクト表現） 第13回：文法シラバスに基づく日本語教科書の分析7（ヴォイス表現） 第14回：文法シラバスに基づく日本語教科書の分析8（モダリティ表現） 第15回：まとめ・授業アンケート 定期試験（レポート）</p> <p>なお、本授業の計画については、受講する学生の理解度や研究内容により、教科書の扱い方や各回の授業計画を変更することがあり得る。</p>						
成績評価の方法	以下の2点とその割合によって、先に挙げた本授業の目標の達成度を測り、評価する。 授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％）						
成績評価の基準	授業で行う発表や討議に対して積極的かつ能動的に準備し参加できることに加え、レポート課題に対して適切にテーマを設定し、授業で学んだ研究手法や専門的概念をふまえて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切なデータを挙げつつ論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念とデータを統合的に用いて論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、データを用いつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。						
事前事後学習の内容	教科書については各回の授業で扱う範囲を事前に精読し、テーマに関する事ごらるを調べるほか、疑問点や批判的コメントを準備して授業に臨むこと。また発表担当にあたっては、教科書の担当箇所の概要をわかりやすく簡潔に説明できるよう資料作成などを行うこと。以上の課題は、授業での発表や討論に用いるため印刷して持参し、授業終了時に提出する。教員によって添削された課題については、さらに発展的に調べてまとめることを求める。						
履修上の注意	<p>1)授業の運営方法や報告分担などは学生の履修状況により柔軟に対応する。</p> <p>2)受講学生は、教科書の精読や補足的な下調べなどを十分に行い、授業での報告に臨む必要がある。</p> <p>3)日本語教育学に関するテーマで卒業研究を行う学生の受講が望ましい。</p> <p>4)意見の提示や交換を積極的に行うなど、積極的に授業に参加してほしい。</p>						
質問、相談への対応	火曜日の午後12時から午後1時までをオフィスアワーとする。研究室の場所は、人文学部棟の3階。						
教科書	『みんなの日本語 初級（第2版）本冊』（スリーエーネットワーク） 『みんなの日本語 初級（第2版）本冊』（スリーエーネットワーク） また、授業運営に際して必要となる日本語教科書も必要に応じて提示し、授業で用いる。						
参考書	授業の中で適宜、紹介する。 また、授業の中でレジュメや資料などを配布する。						

登録コード	L2831100	開講年度	2020				
担当教員	坂口 和寛			副担当			
授業科目	日本語教育学基幹演習						
英文授業名	Pedagogy of Japanese as a Foreign Language:Basic Seminar						
授業タイトル	日本語教育とコミュニケーション能力						
単位数	2	対象学生	2~4	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・5時限
講義室	人文201演習室	読替科目	読替科目は履修案内を確認すること				
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二言語学習者のコミュニケーション能力とその特徴、関連する概念を専門的に学ぶことで、日本語教師や日本語母語話者として正確かつ適切にコミュニケーションが実践できるようになる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>第二言語としての日本語の教育・学習のあり方を考えるうえで不可欠な「コミュニケーション能力」という概念を専門的に学ぶ。そして、外国人学習者への日本語教育や、日本語教師と学習者とのコミュニケーションを深く理解し、分析するための基礎を身につける。</p> <p>本授業を通じ、日本語教師や日本語学習者、さらには日本語母語話者のコミュニケーションに関わる事象を観察し分析できること、そして文献を正確かつ批判的に読み解けることを、研究リテラシーとともに向上させていく。授業目標については、各回の授業内で行う発表や質疑応答、協働作業を通じて達成する。</p>						
授業の概要	<p>本授業では、第二言語の教育や学習を考えるうえで重要な要素である「コミュニケーション能力」を取り上げた教科書を精読し、日本語教育に関する実践や研究の基礎的事項を学ぶ。具体的には日本語教育や日本語学習、日本語教師、日本語学習者などに焦点を当てつつ、第二言語学習者のコミュニケーション能力の面から日本語支援の現場で教師や日本語母語話者が留意すべき事柄を学ぶ。同時に、日本語教育学研究に不可欠で重要な概念を学び、文献研究や卒業研究に必要な専門知識を身につける。</p>						
授業計画	<p>第1回：履修ガイダンス / 日本語教育の構成要素とは</p> <p>第2回：コミュニケーション能力とは何か</p> <p>第3回：第二言語教育におけるコミュニケーションの捉え方</p> <p>第4回：日本語教育と日本語学習から見た言語知識</p> <p>第5回：第二言語習得とその理論</p> <p>第6回：日本語学習者のストラテジー1（学習ストラテジー）</p> <p>第7回：日本語学習者のストラテジー2（コミュニケーションストラテジー）</p> <p>第8回：日本語学習者と動機づけ・学習態度</p> <p>第9回：第二言語教育における言語教師の役割</p> <p>第10回：第二言語教育を支える教授法とその理論（メソッドとアプローチ）</p> <p>第11回：第二言語教育のコースデザインとその構成要素</p> <p>第12回：教科書や教材の選択と作成</p> <p>第13回：言語的側面の指導とその留意点</p> <p>第14回：第二言語教育における言語活動・タスク</p> <p>第15回：まとめ・授業アンケート</p> <p>定期試験（レポート）</p> <p>なお、本授業の計画については、受講する学生の理解度や研究内容により、取り上げる文献のテーマや各回の計画を変更することがあり得る。</p>						
成績評価の方法	<p>以下の2点とその割合によって、先に挙げた本授業の目標の達成度を測り、評価する。</p> <p>授業への参加度（60％）・期末のレポート（40％）</p>						
成績評価の基準	<p>授業で行う発表や討議に対して積極かつ能動的に準備し参加できることに加え、レポート課題に対して適切にテーマを設定し、授業で学んだ研究手法や専門的概念をふまえて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切なデータを挙げつつ論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念とデータを統合的に用いて論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、データを用いつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。</p>						
事前事後学習の内容	<p>教科書については各回の授業で扱う範囲を事前に精読し、テーマに関する事柄を調べるほか、疑問点や批判的コメントを準備して授業に臨むこと。また発表担当にあたっては、教科書の担当箇所の概要をわかりやすく簡潔に説明できるよう資料作成などを行うこと。以上の課題は、授業での発表や討論に用いるため印刷して持参し、授業終了時に提出する。教員によって添削された課題については、さらに発展的に調べてまとめることを求める。</p>						
履修上の注意	<p>1) 授業の運営方法や報告分担などは学生の履修状況により柔軟に対応する。</p> <p>2) 受講学生は、教科書の精読や補足的な調べなどを十分に行い、授業での報告に臨む必要がある。</p> <p>3) 日本語教育学に関するテーマで卒業研究を行う学生の受講が望ましい。</p> <p>4) 意見の提示や交換を積極的に行うなど、積極的に授業に参加してほしい。</p>						
質問、相談への対応	<p>火曜日の午後12時から午後1時までをオフィスアワーとする。研究室の場所は、人文学部棟の3階。</p>						
教科書	<p>『コミュニケーション能力 理論と実践』（サンドラ・サヴィニョン；法政大学出版局；2009年）</p> <p>なお、必要に応じて教科書や参考書を追加する。また、授業の中でレジュメや資料などを配布する。</p>						
参考書	<p>授業の中で適宜、紹介する。</p>						

登録コード	L2960600	開講年度	2022				
担当教員	大島 武		副担当				
授業科目	書道芸術						
授業タイトル							
単位数	2			講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限 月曜・4時限
講義室	人文第2講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・東洋の文字や書道芸術が多様な文化のひとつとして理解できるようになる。</p> <p>(3)【授業のねらい】 書道の基礎的な技術と見識を身につける。</p>						
授業の概要	漢字について、毛筆を中心に各書体の基本から応用までを学ぶ。						
授業計画	<p>第1回：楷書について（eALPSによるレポート及び硬筆課題）</p> <p>第2回：行書について（eALPSによるレポート及び硬筆課題）</p> <p>第3回：書へのいざない（書体の変遷、臨書と創作、用具用材等）、漢字仮名交じり文硬筆</p> <p>第4回：楷書の基本点画（姿勢と執筆、縦画・横画・折れ・左払い・右払い）</p> <p>第5回：楷書の基本点画（そり・はね・折れ）</p> <p>第6回：楷書の基本点画（曲がり・はね・とめ）</p> <p>第7回：欧陽詢の楷書（九成宮醜泉銘）</p> <p>第8回：虞世南の楷書（孔子廟堂碑）</p> <p>第9回：?遂良の楷書（雁塔聖教序）</p> <p>第10回：顔真卿の楷書</p> <p>第11回：行草書の基本用筆</p> <p>第12回：王羲之の行草書</p> <p>第13回：隸書の基本用筆</p> <p>第14回：篆書の基本用筆</p> <p>第15回：漢字作品の創作（半紙、半切4分の1、色紙、うちわ等）</p> <p>授業アンケート実施 定期試験：なし</p>						
成績評価の方法	毎回提出する作品（鑑賞の場合はレポート）により、書道の基礎的な技術と見識が身についたかを評価する。						
成績評価の基準	提出課題の水準による。						
事前事後学習の内容	特になし						
履修上の注意	この授業は積み重ねが重要であるから、休まないことが肝要。「書道芸術」を続けて履修することが望ましい。						
質問、相談への対応	授業終了後直接またはメールアドレス：kozan_o@yahoo.co.jp						
教科書	授業内で紹介						
参考書	授業内で紹介						

登録コード	L2961200	開講年度	2022				
担当教員	護山 真也		副担当				
授業科目	古典語						
授業タイトル	Sanskrit I						
単位数	2		講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限	
講義室	人文第2講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級サンスクリット語の習得を通して、インド文化に関する知識を身につけることができるようになる。 <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>サンスクリット語の初等文法を身につけることが、この授業のねらいです。この言語の習得は、インド・ヨーロッパ語族に属する他の言語（英語・ドイツ語・フランス語など）の成り立ちを考える上でも有益であることは言うまでもありません。また、言葉を通してインド的思考を学ぶことにもなります。</p>						
授業の概要	最初の二回の授業でデーヴァナーガリー文字を習得した後は、配布プリントに従って文法の解説を行います。また、毎回、授業のはじめには、練習問題の答え合わせも行います。						
授業計画	<p>第01回：イントロダクション／文字の学習</p> <p>第02回：文字の学習</p> <p>第03回：第一種動詞（parasmaipada）</p> <p>第04回：a語幹名詞の変化</p> <p>第05回：第一種動詞（atmanepada）</p> <p>第06回：連声法：母音連声</p> <p>第07回：連声法：ヴィサルガに関する連声</p> <p>第08回：連声法：子音連声</p> <p>第09回：i語幹名詞など</p> <p>第10回：動詞の過去形</p> <p>第11回：子音語幹名詞など</p> <p>第12回：行為者名詞／親族名詞</p> <p>第13回：代名詞</p> <p>第14回：代名詞 / 関係代名詞</p> <p>第15回：まとめ・授業アンケート</p>						
成績評価の方法	毎回の課題の発表2割、筆記試験8割で判断します。						
成績評価の基準	サンスクリット語の基本的な文法事項を理解していることを水準とし、そこから応用的な文章がどの程度理解できるかに応じて、やや上にあるもの、かなり上にあるもの、卓越したものと認めます。						
事前事後学習の内容	毎回の授業の際に、練習問題が与えられます。授業の内容を踏まえて（事後学習）、練習問題を解いてくること（事前学習）が必要になります。						
履修上の注意							
質問、相談への対応	基本的にメール（smoriyam@shinshu-u.ac.jp）で受け付けます。必要に応じて、zoomでのオンライン面談にも応じます。その場合もまずはメールで連絡をとってください。						
教科書	初回時に教科書となる冊子を配布します。						
参考書	<p>できるだけ次の参考書を手元に置いておくことをお勧めします。</p> <p>辻直四郎『サンスクリット文法』（岩波全書）</p>						

登録コード	L2961600	開講年度	2022				
担当教員	GRAY DAVID JOHN		副担当				
授業科目	英語ライティング						
授業タイトル	英語ライティング						
単位数	1		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限	
講義室	人文202演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 (2)【授業の達成目標】 (3)【授業のねらい】 By the end of the course students will:</p> <p>Students will be able to write 200-word essays on daily and academic topics.</p> <p>They will ...</p> <p>1) be able to write more descriptively (descriptive writing) 2) write their opinions in a clear and organized manner (persuasive writing) 3) plan and compose group writing (in English) and offer suggestions (give feedback) to each other on how to make their writing more descriptive or persuasive using the techniques taught in class and or rubrics provided by the teacher.</p>						
授業の概要	In both group and individual writing assignments, students will learn some of the skills needed to write descriptively and persuasively. They will have opportunities to write with "voice", expressing their opinions, their thinking and displaying creativity and their personality.						
授業計画	<p>Classes 1 to 15 and class 16 Note: "Share" means to read out loud and talk about recently completed writing assignments and to receive feedback on that work.</p> <p>1) Course Introduction. Writing Baseline Assessment: Write about yourself. 2) Descriptive Writing. Share. Learn how to "show" and not "tell" in writing and how to use an outline effectively for descriptive writing. 3) Descriptive Writing. In groups: add description to a paragraph provided. 4) Descriptive Writing: Share. Feedback. Repeat work in new group. 5) Descriptive Writing: Share. Individually apply descriptive writing skills learned in group work by making a paragraph more descriptive. 6) Descriptive Writing: In groups, write a descriptive ending to a true story. 7) Descriptive Writing: share / feedback. Individually work on an outline for ending to a true story. Receive feedback. 8) Descriptive Writing: Individually write a descriptive ending to a true story. 9) Descriptive Writing: Some students share with the whole class. Write own descriptive true story about yourself. 10) Share / Feedback. 11) Introduction to Persuasive Writing / Group discussions on topics. 12) Persuasive Writing. Groups choose a topic and write outline. 13) Persuasive Writing. Feedback. Groups write essay. Share. 14) Persuasive Writing. Feedback. Choose topic and Write Outline for individual writing assignment. 15) *Persuasive Writing: Share. Feedback. Preparation for final assignment. 16) *Final assignment- on descriptive writing or persuasive writing (depending on progress of the class in these areas). - the Class Reflection Survey * usually this course has 16 lessons. If there are only 15 lessons, the pace of learning will be adjusted and the final assignment/test will occur during the 15th class.</p>						
成績評価の方法	<p>Regular Writing assignments: 30% Mid-term writing assignment 20% Final Assignment 20% Homework completion: 15% Class & group participation 15%</p>						
成績評価の基準	<p>Descriptive Writing:</p> <p>B "meets expectation" Student makes use of many challenging adjectives and adverbs and describes the characters and setting of the story effectively. A - exceeds these expectations. C - has some of the qualities of a B.</p> <p>Persuasive Writing:</p> <p>B - arguments are explained clearly and logically with details. Anticipates and answers counter arguments. Persuasive. A - also shows research and original thinking. Very persuasive. C - some elements of B.</p>						
事前事後学習の内容	Students are expected to prepare outlines and finish assignments and write final copies as homework. They should use a thesaurus (see recommended materials below) to learn new vocabulary for descriptive writing. Research is required for persuasive writing.						
履修上の注意	If absent students are responsible for finding out what classwork and homework they will need to do by the following class.						
質問、相談への対応	I do not have an office at Shinshu. I will give my email address in the first class.						
教科書	No textbook. Photocopies or document files on e-Alps will be provided.						
参考書	<p>Recommended:</p> <p>1) electronic Japanese-English dictionary and thesaurus. 2) The book titled "Longman Thesaurus of American English"</p> <p>A thesaurus will define words and give you additional words that have the same meaning. This will help to expand your vocabulary. It uses example sentences to put words in context.</p>						

登録コード	L2961801	開講年度	2022				
担当教員	VAN DEN BERGH PETER CHARLES			副担当			
授業科目	英語コミュニケーション初級						
授業タイトル							
単位数	1			講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限
講義室	人文第3講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 (2)【授業の達成目標】 (3)【授業のねらい】 基本的な文法の復習をします。中学・高校とは対照的に、言葉を積極的に使うことに重点を置きます。 基本的な文法をきちんと押さえた上で、様々な文脈で応用し、基本を継続的に繰り返していきます。 実用的な面だけでなく、批判的な思考や表現にも焦点を置きます。</p> <p>Basic grammar will be reviewed. As opposed to junior high and high school, the emphasis will lie on active use of the language. With a decent control of basic grammar, we will apply the language in different contexts, and continuously repeat basics. Besides the pragmatic focus, a lot of attention goes to critical thought and expression!</p> <p>グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</p>						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の基本を理解し、積極的に活用する ・スピーチを応用しさらにレベルを高めるための様々な活動 ・映画、音楽、文学などから得たさまざまなトピックをもとにした思考的・独創的なグループディスカッション ・プレゼンテーション <p>-Understanding and active use of the basics of the English language. -Variety activities to enhance speech emergence and intermediate fluency. -Group discussions based on different topics gotten from movies/music/literature, etc. The topics often are thought provoking which should make discussions interesting. -Presentations.</p>						
授業計画	1-course introduction 2-Grammar; review be verbs (+,-,?) / activities 3-Grammar; WH questions/ activities 4-Grammar; third person singular/ activities 5-Grammar; prepositions of place/ activities 6-Grammar; tenses/activities 7-Grammar; tenses/activities 8-topic 1 discussion/debate 9-topic 2 discussion/debate 10-topic 3 discussion/debate 11-topic 4 discussion/debate 12-topic 5 discussion/debate 13- students' presentation/class 14- students' presentation/class 15- students' presentation/class ・ the Class Reflection Survey						
成績評価の方法	授業は言語を積極的に使うことに重点を置いているので、積極的な参加が成績の大部分(50%)を占めています。残りの50%は、個人またはグループで行うプレゼンテーション、および授業への姿勢と実施に基づきます。試験はありません。 <p>As the classes focus on active use of the language, active participation makes up a great part of the grade (50%). The remaining 50% is based on a presentation/ structuring and the conducting of a class, which can be done individually or in group. There are no exams.</p>						
成績評価の基準	評価基準は、語学力・流暢性と向上成果、参加努力、批判のセンスです。 <p>Evaluation criteria are; Language skill/fluency and improvement, participation effort, and critical sense.</p>						
事前事後学習の内容	授業以外でも、できるだけ英語に触れておくとよいでしょう。教科書を使うような典型的な方法に限らず、言語に触れることが大切です。例えば、映画やドラマをオリジナル音声で観て、日本語の字幕をつけるなど。 <p>Outside of class, it would be advisable to expose yourself as much as possible to the English language. This does not have to be in typical use of textbook fashion. Instead, watch movies or dramas in their original language with Japanese subtitles, for example.</p>						
履修上の注意							
質問、相談への対応	Upon appointment and through correspondence. email: petervd@shinshu-u.ac.jp						
教科書	なし						
参考書	なし						

登録コード	L2962000	開講年度	2022				
担当教員	VAN DEN BERGH PETER CHARLES			副担当			
授業科目	英語コミュニケーション中級						
授業タイトル							
単位数	1			講義期間	前期	曜日・時限	月曜・4時限
講義室	人文202演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 (2)【授業の達成目標】 (3)【授業のねらい】 英語コミュニケーション初級 に近い内容ですが、比較的速いペースで基本的な文法の復習をします。中学・高校とは対照的に、言葉を積極的に使うことに重点を置きます。 基本的な文法をきちんと押さえた上で、様々な文脈で応用し、基本を継続的に繰り返していきます。 実用的な面だけでなく、批判的な思考や表現にも焦点を置きます。</p> <p>Basic grammar will be reviewed (content is very similar to 英語コミュニケーション初級 , but at a faster pace) . As opposed to junior high and high school, the emphasis will lie on active use of the language. With a decent control of basic grammar, we will apply the language in different contexts, and continuously repeat basics. Besides the pragmatic focus, a lot of attention goes to critical thought and expression!</p> <p>グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</p>						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の基本を理解し、積極的に活用する ・スピーチを応用しさらにレベルを高めるための様々な活動 ・映画、音楽、文学などから得たさまざまなトピックをもとにした思考的・独創的なグループディスカッション ・プレゼンテーション <p>-Understanding and active use of the basics of the English language. -Variety activities to enhance speech emergence and intermediate fluency. -Group discussions based on different topics gotten from movies/music/literature, etc. The topics often are thought provoking which should make discussions interesting. -Presentations.</p>						
授業計画	1-course introduction 2-Grammar; review basics/activities 3-Grammar; review basics/activities 4-Grammar; review basics/activities 5-Grammar; review basics/activities 6-topic 1 discussion/debate 7-topic 2 discussion/debate 8-topic 3 discussion/debate 9-topic 4 discussion/debate 10-topic 5 discussion/debate 11-topic 6 discussion/debate 12- students' presentation/class 13- students' presentation/class 14- students' presentation/class 15- students' presentation/class ・ the Class Reflection Survey						
成績評価の方法	<p>授業は言語を積極的に使うことに重点を置いているので、積極的な参加が成績の大部分(50%)を占めています。残りの50%は、個人またはグループで行うプレゼンテーション、および授業への姿勢と実施に基づきます。 試験はありません。</p> <p>As the classes focus on active use of the language, active participation makes up a great part of the grade (50%). The remaining 50% is based on a presentation/ structuring and the conducting of a class, which can be done individually or in group. There are no exams.</p>						
成績評価の基準	<p>評価基準は、語学力・流暢性と向上成果、参加努力、批判のセンスです。</p> <p>Evaluation criteria are; Language skill/fluency and improvement, participation effort, and critical sense.</p>						
事前事後学習の内容	<p>授業以外でも、できるだけ英語に触れておくといでしょう。教科書を使うような典型的な方法に限らず、言語に触れることが大切です。例えば、映画やドラマをオリジナル音声で観て、日本語の字幕をつけるなど。</p> <p>Outside of class, it would be advisable to expose yourself as much as possible to the English language. This does not have to be in typical use of textbook fashion. Instead, watch movies or dramas in their original language with Japanese subtitles, for example.</p>						
履修上の注意							
質問、相談への対応	Upon appointment and through correspondence. email: petervdb@shinshu-u.ac.jp						
教科書	なし						
参考書	なし						

登録コード	L2963200	開講年度	2022				
担当教員	LI DANDAN		副担当				
授業科目	中国語コミュニケーション中級						
授業タイトル	中国語コミュニケーション中級						
単位数	1		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・2時限	
講義室	人文202演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・中級レベルの中国語リスニング及び会話・作文ができるようになること。</p> <p>(3)【授業のねらい】 毎回の授業での蓄積を通じて、中国語のリスニングと実践的な会話・作文能力をよりアップすること、中国（人）に対する理解をより深めること。</p>						
授業の概要	<p>テキストに沿って場面に分けた会話を取り上げ、実際に使われている中国語を学びます。 毎回授業の最初の15分～20分は復習、講師と会話練習をします。 出てきた単語の使い方や文法を学習者の理解を確認しながら説明します。 中国事情、行事、中国人の考え方などについても適宜紹介します。 必要に応じてテキスト以外の音声資料を使用し、リスニング、会話能力をトレーニングします。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、自己紹介 第一課 再会 第2回 第二課 入学手続き 第3回 第三課 リスニング授業 第4回 第四課 朝市をぶらぶらする 第5回 第五課 動物園 第6回 第六課 中秋節 第7回 第七課 国慶節 第8回 第八課 京劇を鑑賞する 第9回 第九課 本を借りる 第10回 第十課 助け合う 第11回 第十一課 ホテルを探す 第12回 第十二課 端午節 第13回 第十三課 日の出を見る 第14回 第十四課 ボランティア 第15回 復習 第16回 期末テスト 授業アンケート実施</p>						
成績評価の方法	<p>授業中の発表で以下を確認します（授業中に指名します）。（5割）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音 ・リスニング能力 ・会話・作文能力 <p>暗唱小テスト（1割×2回） 期末テスト（2割） 基礎点（1割）</p>						
成績評価の基準	<p>授業中の発表について [水準レベル]指導を受けながら正しい発音と聞き取りができる。 [やや上]学んだ内容を指導なしで正しい発音と聞き取りができる。 [かなり上]上記に加え、学んだものを応用し、ある程度中国語でコミュニケーションができる。 [卓越]指導なしで正しい発音と文法を使って、学んだ内容を応用しながら自由に中国語でコミュニケーションができる。</p> <p>小テストについて [水準レベル]ヒントを得ながら、指定した文章を暗唱できる。 [やや上]ヒントなしで、指定した文章を暗記できる。 [かなり上]上記に加え、きれいな発音で暗記できる。 [卓越]上記に加え、自然な口調で流暢に暗唱できる。</p> <p>期末テストについて [水準レベル]問題の6割正解する。 [やや上]問題の7割正解する。 [かなり上]問題の8割正解する。 [卓越]問題の9割以上正解する。</p> <p>基礎点について 欠席、授業中の居眠りなど、不適切な行動がある場合は、一回につき2点減点する。</p>						
事前事後学習の内容	・学習した内容を整理し、発音練習と暗唱を中心に復習してください。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の専攻コースは問いませんが、基礎中国語の既習者に限ります。 ・時間をかけて復習を行ってください。 						
質問、相談への対応	授業前後に対応します。 その時間以外の場合はlidandan@shinshu-u.ac.jpへメールするか、電話してください。						
教科書	『たのしくできる We can!中国語 中級』徐送迎著、2013年、朝日出版社、2,400円（税別）						
参考書	特にありません。						

登録コード	L2963400	開講年度	2022				
担当教員	間 小妹		副担当				
授業科目	中国語コミュニケーション上級						
授業タイトル							
単位数	1			講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限
講義室	人文202演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 (2)【授業の達成目標】 (3)【授業のねらい】 中国近代史、現代事情を理解しながら中国人の日常会話を聞き取れるようになることをねらいとする。 毎回の授業での蓄積を通じて、授業目標を達成する。</p>						
授業の概要	中国の現代小説『戸口本』を読む。毎回単語を調べ、本文の朗読をして、それから各自で和訳を発表する。						
授業計画	<p>受講生の希望によって分担を決める。前期では、本文を読みながら、日本語に訳す練習をする。</p> 第1週 新単語、朗読 第2週 本文の和訳 第3週 文法、慣用句の復習 第4週 新単語、朗読 第5週 本文の和訳 第6週 文法、慣用句の復習 第7週 新単語、朗読 第8週 本文の和訳 第9週 文法、慣用句の復習 第10週 新単語、朗読 第11週 本文の和訳 第12週 文法、慣用句の復習 第13週 新単語、朗読 第14週 本文の和訳 第15週 文法、慣用句の復習 授業アンケート実施						
成績評価の方法	授業への積極的参加度4割と毎回の明確な朗読、和訳の完成度6割による。						
成績評価の基準	指定された範囲の内容について日本語で明確で、詳細に説明を述べることができたら卓越している。説明を大体述べるのが出来たらその水準にある。						
事前事後学習の内容	作品の本文朗読を練習し、語彙の習得をしなければならない。						
履修上の注意	最初の授業にガイダンスをしますので必ず来てください。 受講生は毎回本文の朗読、訳文を作成しておく。						
質問、相談への対応	質問や相談があれば、木曜のお昼(14:00 15:00)に研究室に来てください。メールで予約も出来ます。						
教科書	発音がついている資料を渡します。						
参考書	『中国の近代を問うー歴史・記憶・アイデンティティ』孫江著(汲古選書2014/7) 『近代中国の宗教・結社と権力』孫江著(汲古叢書2012/6)						

登録コード	L2963600	開講年度	2022				
担当教員	VAN DEN BERGH PETER CHARLES		副担当				
授業科目	英米文化事情						
授業タイトル							
単位数	2		講義期間	前期	曜日・時限	月曜・2時限	
講義室	人文第1講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力 ・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力 ・情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力 ・領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力 <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文化それぞれの要素に触れ、分析することにより学習における焦点を批判的に読み取り、文章の過程を示すことができるようになる。 ・ null ・ null ・ null ・ null ・ null <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>このコースでは英文化を批判的に捉え、より理解できるようになる事をねらいとしている。芸術、政治、社会、歴史など、多様な英文化の導入やそれらに触れる事に加え、批判的な考えで物事を見る事の重要性を学習することもねらいとしている。</p> <p>This course aims at students being able to critically look at - and better understand - elements of English cultures. Besides exposing and introducing students to different elements of English cultures (arts, political, social, historical), this course aims at giving students an awareness of the importance of critical viewing.</p>						
授業の概要	<p>まず、生徒たちは批判的な思考と意味のある知覚についての導入を学ぶ。この学習を踏まえ、多様な英文化の分析をし、読解のスキルを上げ、一般的な捉え方のさらに向こう側について読み解く。映画、音楽、ビジュアルアート等を分析し、その要素がどう表現しているのか、どう伝達しているのかを見ていく。</p> <p>なぜ映画はカラーと白黒を使用するのか？それはどういう意味なのか？</p> <p>ポップカルチャーは表現に乏しい事を暗示しているのか？</p> <p>ボブ・ディラン、トム・ワイズ、ジョン・レイドソン (sex pistols) などの歌えない歌手はなぜ音楽界でのアイコンを獲得しているのか？</p> <p>このような解題の訓練をしていく中で、敏感な視点で文化的要素を見とるその真の面白みが見えるということが分かるようになる。</p> <p>学期終盤には、単独または小グループで選んだトピックでのプレゼンテーションも予定している。</p> <p>At first, students will be introduced to what critical thinking and sensitive perception means.</p> <p>With this definition in mind, we will then analyze different elements from English cultures in class and thus improve our "reading" skills and go beyond what one commonly understands from those elements. We will analyze movies, music, visual art, etc. and try to see how those elements express, and what it is they convey.</p> <p>- Why does a movie use both colour and black and white? What does that mean?</p> <p>- Does pop culture imply a less meaningful form of expression?</p> <p>- Why do "singers who cannot sing", such as Bob Dylan, Tom Waits, John Lydon (sex pistols) etc. have an iconic status in the music world?</p> <p>Through such "reading" practice, students will become more aware of the importance of looking with a sensitive eye in order to see the actual richness of cultural elements.</p> <p>Towards the end of the semester students (in small groups) will then give a presentation on a topic of their choice.</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Intro and orientation 2. sensitive perception and the Critical mind 3. Cultural element (1) American movie remakes 4. Cultural element (2) American movie remakes 5. Cultural element (3) Social classes in American film (The Breakfast Club) 6. Cultural element (4) New wave music 7. Cultural element (5) perception of native Americans 8. Cultural element (6) Compare American and British humor 9. Cultural element (7) Compare American and British humor 10. Cultural element (8) Gender role (film; Closer) 11. Students' presentations, free topic 12. Students' presentations, free topic 13. Students' presentations, free topic 14. Students' presentations, free topic 15. Evaluation <p>・ the Class Reflection Survey</p>						
成績評価の方法	<p>1 - 授業への出席率；授業内でのディスカッションで積極的な参加をする 50 %</p> <p>質問や感想を言う事で積極的な参加をすること。</p> <p>2 - プレゼンテーション 50 %</p> <p>1- Participation in class through; The level of active participation in class discussions counts for 50 %. Students get the gross amount of the 50% from actively engaging in class by asking questions and /or making comments.</p> <p>2- Students' presentation (50%)</p>						
成績評価の基準	<p>授業への参加：積極的な授業への参加と小アサインメント</p> <p>毎週、生徒は文章や映画などを読むように誘われる。それが翌週授業内で分析やディスカッションする題材となる。題材については授業前に短い評価を書く事ができる。評価は批判的な疑問や、文化的要素が伝達しようとしていることに対しての提案、そしてこの短い評価を書く事で、授業内でのディスカッションに備えられる。</p> <p>プレゼンテーション</p> <p>学期の終盤に、単独または2-3人のグループで英文化の要素を自由に選んだ内容でプレゼンテーションをする。45-90分のプレゼンテーションを構成し、要素の分析や授業内での気づきについて発表する。発表時間は参加人数により変更の可能性。</p> <p>生徒への評価はデータ収集をいかにできているか、文化的要素の理解度をいかにコメントで示せるか、そして自問しているかで見える。</p> <p>A: 理解したうえで情報が多く提示されているか。批判的な疑問を多く持ち、理解しようとしているか。</p> <p>B: 理解したうえで情報が十分か。批判的な疑問を十分に持ち、理解しようとしているか。</p> <p>C: 理解したうえで情報が十分か。批判的な疑問をいくつが持ち、理解しようとしているか。</p> <p>D: いくつが理解したうえで情報が提示されているか。批判的な疑問を少し持ち、理解しようとしているか。</p> <p>F: 少しの理解したうえで情報が提示されているか。批判的な疑問を少し持ち、理解しようとしているか。</p> <p>*Participation in class: Actively engaged in class and small assignments. Each week the students will be given texts, a movie, etc. which will be the subject of analysis/discussion the next week. The students are required to write a small evaluation on that subject beforehand. This evaluation can be in the form of (critical) questions, suggestions on what the cultural element is trying to convey, or specific points that caught the student's interest. This written evaluation will aid the students in the class discussion.</p> <p>*Students' presentation: Towards the end of the semester, student, individually or in small groups (2,3 students), freely choose any element of English cultures. They analyze the element and then present their findings in class in the form of a 45 min.-90 min. presentation.</p> <p>The basis of the grading lies in how well students gather data, show an understanding of the studied subjects by form of comments or insights, and/or the way students come up with questions in order to better understand the studied subject.</p> <p>A: A great amount of information is understood and given. A great amount of critical questions guided the learning/analyzing process.</p> <p>B: A good amount of information is understood and given. A good amount of critical questions guided the learning/analyzing process.</p> <p>C: A good amount of information is understood and given. Some critical questions guided the learning/analyzing process.</p> <p>D: Some information is understood and given. Little to no critical questions guided the learning/analyzing process.</p> <p>F: Little to no information is understood and given. Little to no critical questions guided the learning/analyzing process.</p>						
事前事後学習の内容	<p>毎週： 毎週の授業のトピック/題材について学習し、質問、意見、興味を評価メモにしておくこと。 評価メモは短くても長くても構わないが、トピック/題材についてよく考えること。</p> <p>1学期に一度： 英文化要素を一つ選び、小グループで分析した結果をクラス全体とプレゼンテーションで共有する。プレゼンテーションは35分。</p> <p>On a weekly basis: Students are expected to prepare for the following class by "studying" the topic/subject of the next week's lesson. They should put their questions, opinions, interests on the subject into writing in the form of a very small written evaluation. This evaluation can vary in size and is aimed at getting students familiar with the subject matter before we analyze the subject together in class.</p> <p>Once per semester: Students should look for and choose an element of an English culture. After analysis conducted in small groups, they should then share their findings with the rest of the class in form of an approximately 20 min. presentation.</p>						
履修上の注意	<p>文化要素を楽しむ、知識欲になること！ 食文化に触れ、英文化だけでなく世界の文化に触れる経験をさせる機会が1, 2学期に一度授業外である。 授業評価には直接関係しないため、食文化体験を希望する者のみで参加すること。</p> <p>Enjoy the cultural elements and be inquisitive! Students will have the opportunity, once or twice a semester, to participate in an epicurean study circle. These are meetings held in our free time. They involve exploring the world of taste experiences. The relevance to the course is that the same critical approach will be the guiding thought. Joining this study circle is not at all obligatory and is just intended as an extra opportunity to experience elements of foreign cultures. (Not necessarily English cultures!!!)</p>						
質問、相談への対応	<p>petervdb@shinshu-u.ac.jp Office hours; Monday afternoon 13:00-15:00, Thursday 15:00-16:00, or make an appointment.</p>						
教科書	Will be provided in class.						
参考書	Will be provided in class.						

登録コード	L2964000	開講年度	2022				
担当教員	延 鎮淑		副担当				
授業科目	東洋文化事情						
授業タイトル							
単位数	2			講義期間	前期	曜日・時限	火曜・3時限
講義室	人文第4講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・韓国のような文化を理解できるようになる</p> <p>(3)【授業のねらい】 グローバル社会だといわれるなかで、多様な文化を理解することは重要である。そこで東洋文化のなかで隣国である韓国の文化諸相に触れることによって、日本人が当たり前だと思っている日本文化の再発見と韓国文化や韓国人への理解を深めることに重点を置いて授業を進める。毎回の授業での蓄積を通じて、授業目標を達成する。</p>						
授業の概要	ビデオ教材や資料を用いて韓国文化を紹介し、それについての意見交換をする。						
授業計画	<p>1)授業ガイダンス 2)韓国の地方都市 3)北朝鮮との関係 4)金日成 - 半島が割れた時 - 5)板門店の様子 5)ハンゲルの仕組み・読み方 6)伝統音楽 7)韓国の世界文化遺産 8)ことわざ 9)韓国映画鑑賞前半 10)韓国映画鑑賞後半 11)韓国の国旗・国歌 12)韓国の町冠婚葬祭・結婚事情 13)ドキュメンタリー鑑賞 14)韓国のアニメ 15)海峡をつなぐ光（玉虫厨子）、授業アンケート（最後の15分間実施）</p>						
成績評価の方法	<p>感想シート：3割（毎回の感想・発見したこと・質問）</p> <p>課題：3割 1回：韓国の民主化運動 〳切5月23日 2回：鑑賞映画の事前学習的な課題（授業時に発表する）</p> <p>期末レポート：4割（テーマ：授業時に発表する）</p>						
成績評価の基準	<p>1) 出題（授業）のテーマに沿った内容であり、 2) テーマの背景が説明出来ており、 3) インターネットのみによる資料ではなく（課題やレポートの場合）、 4) 自分の見解を提示出来ており、 5) 教員を感心させるレベル</p> <p>1)～5)の5項を満たしていれば「卓越している」<秀>、4項目までは「かなり上にある」<優>、3項目までは「やや上にある」<良>、2項目までは「水準にある」<可></p>						
事前事後学習の内容	予習しておくべき事項をeALPSにアップして置く。しっかり予習してから授業に臨むこと						
履修上の注意	<p>積極的に参加することを望む。 韓国関連の情報を収集するなど、自主学習をすること。 受講希望者多数の場合は、1回目の授業で締め切る。</p> <p>*遅刻と認定する時間：授業開始10分後、欠席と認定する時間：授業開始30分後</p>						
質問、相談への対応	メール：yeonjin@shinshu-u.ac.jp						
教科書	使用しません。						
参考書	授業時に紹介します。						

登録コード	J2109200	開講年度	2021	県内大学開放授業			
授業科目	世界経済論			担当教員	吉村 信之		
英文授業名	World Economy			副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 3時限		対象学年 (16カリ対象科目) 経: 2年
講義室	経法第4講義室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」 ・経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。 ・専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、リスク評価、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。 【授業の達成目標】 ・経済学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につけることができるようになる。 ・経済学に基づく論理的思考法を身につけ、経済理論の応用分野として、現代社会を経済の観点から理解できるようになる。 【授業のねらい】 世界経済の歴史と現状について、景気循環・恐慌を中心に理解を深める。</p> <p>(2)授業の概要 世界経済の現状を、景気循環を中心に概観します。 世界経済は、19世紀以降、今日に至るまで、恐慌・不況をともなう景気循環を繰り返しながら発展してきました。この講義は、旧カリ名「景気循環論」(11・15カリ)であり、新カリ名「世界経済論」(16カリ)として授業名を改称して開講されますが、旧科目同様、世界経済の現状を、好不況の局面を有する資本主義経済における恐慌、あるいは景気の循環に即しながら、理論と歴史の双方から概観し分析する、という講義内容のスタンスに変わりはありません。 この講義では、世界経済の歴史的な変化と現状を、景気循環の形態の変化、さらにそれにともなう基軸産業と通貨制度の変遷などの視点から考察します。そしてそのことを通じて、現代の世界経済を、歴史と理論の両輪から総合的に捉え分析する予定です。</p> <p>(3)授業計画 変更の余地はありますが、以下のように進めていく予定です。</p> <p>第1回 序論 現代資本主義と景気循環 日本経済と世界経済 第2回 景気循環論の概観 景気変動の種類/景気循環の指標 第3回 景気循環論の概観 景気循環の歴史的局面 第4回 景気循環論の概観 景気循環をめぐる経済学説 第5回 恐慌・景気循環の歴史と現状分析/重商主義以前 第6回 自由主義段階の恐慌・景気循環 第7回 帝国主義段階の恐慌・景気循環 1870年代から第一次世界大戦まで 第8回 世界大恐慌(1929-33) 第9回 高度経済成長とその終焉 スタグフレーションの発生 第10回 1980年代以降の「金融化(financialization)」と「サブプライム」金融危機 第11回 経済学における景気循環論 恐慌の発生と経済学の分岐 第12回 ケインズ派の景気循環論と経済成長論 第13回 新古典派の経済成長論・景気循環論 第14回 マルクス派の恐慌論・景気循環論 第15回 まとめ</p> <p>(4)成績評価の方法 学期末試験(80%)と小テスト(20%)で評価します。</p> <p>(5)成績評価の基準 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 ・講義には出席してください。後で配布資料や参考書を読むだけでは理解できないと思います。 ・こまめに復習することを心がけてください。</p> <p>(7)履修上の注意 「社会経済学」のほか、「経済史」を既習・ないし履修予定であることが望ましい。</p> <p>(8)質問、相談への対応 講義後または研究室で受け付けます。</p>							
<p>【教科書】 毎回、詳細な講義資料を配布します。</p> <p>【参考書】 宇野弘蔵『恐慌論』(岩波文庫) 宇野弘蔵『経済政策論』(弘文堂)</p> <p>その他、講義中に指示します。</p>							

登録コード	J2117200	開講年度	2022	県内大学開放授業				
授業科目	金融論A			担当教員	山沖 義和			
英文授業名	Monetary Economics A			副担当				
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 2時限		対象学年	(16カリ対象科目) 経: 2年
講義室	経法第2講義室		授業区分	講義				
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」 ・経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。 ・専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、リスク評価、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。 【授業の達成目標】 ・日本の金融制度や金融の仕組みに関する基礎的知識を習得できるとともに、金融理論を応用して説明できるようになる。 ・経済の血流にたとえられるように現代経済にとって重要な役割を果たしている金融制度を理解し、当該分野の諸課題について、経済理論を応用して説明できるようにする。 【授業のねらい】 ・経済学を学んだ人なら誰でも一度は、「社会に出て経済学は本当に役に立つのか」という疑問を持つと思います。現実の経済は経済理論通りに動く場合もあれば、そうでない場合もあります。本講義では、金融及び国際金融の分野について、その制度の仕組みや政策上の諸課題を取り上げ、大蔵省・財務省・金融庁で勤務した教官の経験も紹介しつつ、現実の金融の世界に対する理解を深めることを目的としています。</p> <p>(2)授業の概要 ・金融庁等における33年間の実務経験を活かして、我が国の金融分野を中心に世界の金融・国際金融分野にも触れつつ、日本の金融制度の概要を紹介し、政策上の課題や最近の動向等を解説します。金融分野については金融庁・日本銀行・金融機関の役割などの基礎的な事項から米国金融危機やマイナス金利など時事的な課題まで取り上げる予定です。 ・日程調整が付けば金融の役割・課題などについてゲスト講師による講義も予定しています。</p> <p>(3)授業計画 第1回 金融システムの概観 第2回 預金取扱金融機関 第3回 メガバンクと自己資本比率規制(1) 第4回 メガバンクと自己資本比率規制(2) 第5回 地域金融機関・公的金融・預金保険機構 第6回 ゲスト講師による講義 第7回 日本銀行の役割と金融政策 第8回 金融資本市場と決済制度の概要 第9回 保険会社 第10回 金融商品取引業者と金融商品(1)証券会社等 第11回 金融商品取引法上の金融商品(2)金融商品 第12回 ゲスト講師による講義 第13回 金融庁・最近20年間の金融規制改革と今後の課題 第14回 我が国金融の歩み(1)金融の自由化等 第15回 我が国金融の歩み(2)平成金融危機・米国金融危機・アベノミクス等 期末試験</p> <p>ゲスト講師による金融関連のトピックスに関する講義(2回を予定)については調整中です。現在のところ、日本銀行松本支店長等に講義をお願いする予定です。 このため、授業計画については、ゲスト講師の予定などにより、今後、変更の可能性があります。</p> <p>(4)成績評価の方法 ・小レポート等(30%) + 確認テスト(30%) + 期末試験(40%) ・このうち、毎回、講義の最後に授業内容のポイントを記入してもらった小レポートについては3段階で評価します。 ・確認テストについては、毎回、講義終了後にe-ALPSを通じて回答してください。</p> <p>(5)成績評価の基準 ・講義で説明した内容を説明できれば「水準にある」、応用問題について経済理論モデルを用いて説明できれば「やや上にある」、現実の経済問題について経済理論モデルを用いて説明できれば「かなり上にある」、現実の経済の中から自らが問題を抽出し、経済理論モデルを用いて説明できれば「卓越している」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 ・毎回、講義前・後に予復習できるようにするため、必要に応じて、事前に講義関連資料(統計データ等)をeALPSに掲載します。 ・講義の復習に資するため、毎回、講義終了後にe-ALPSを通じて確認テストを行います。</p> <p>(7)履修上の注意 ・期末テストの実施に当たっては、毎回、講義の最後に授業内容のポイントを記入してもらった「小レポート」だけを持ち込み可とします。 ・授業に出席してノートをしっかりととり、当日の講義内容を小レポートに十分かつ要領よくまとめることが重要です。 ・日頃から注意して新聞等で財政関連の記事に目を通しておいてください。</p> <p>(8)質問、相談への対応 ・講義をよりよいものとするため、講義中の質問を歓迎します。 ・個別の質問・相談がある場合は、メールで行っても、研究室に来ていただいても構いません。研究室での対応については、事前にメールで相談ください。 ・なお、本講義と関連のない事項であっても質問・相談があれば歓迎します(担当教官は財務省・金融庁等での勤務経験があります。) ・メール・アドレス : yamaoki@shinshu-u.ac.jp</p>								
<p>【教科書】 ・山沖義和・茶野努編著「日本版ビッグバン以後の金融機関経営：金融システム改革法の影響と課題」(勁草書房)(3,500円+税) 【参考書】 ・授業において指示する。</p>								

登録コード	J3114300	開講年度	2022	県内大学開放授業	市民開放授業
授業科目	医療制度論			担当教員	増原 宏明
英文授業名	Health Care System			副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜, 1時限
講義室	経法第2講義室		授業区分	講義	対象学年 (16カリ対象科目) 経:3年/法:3年
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」 ・経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。 ・専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。 【授業の達成目標】 ・医療制度の現代的問題を全員が間違いなく説明できるようになる。 ・医療制度を経済学的思考に基づき、説明できるようになる。 ・医療制度改革の狙いを論理的に批判できるようになる。 【授業のねらい】 社会にとって望ましく適切な医療を提供するためには、適切な医療制度の設計が必要となります。この講義では、社会保険の仕組みを理解した上で、わが国の医療保険制度、後期高齢者医療制度、介護保険制度などを理解します。また医療は供給側にも様々な規制が存在しますので、次に病院に課されている様々な規制や制度を理解します。この授業を受けることで、わが国や諸外国の「医療制度」を把握した上で、現在の制度の問題点を明確にし、第三者に説明できるようになります。</p> <p>(2)授業の概要 医療制度には、主に需要者側（患者側）に向けられるものと、供給者側（医療機関側）に向けられるものがあります。前半部分では、主に患者側に課される医療制度、医療保険制度を把握します。また同時に後期高齢者制度や介護保険にも触れ、医療保険と介護保険を構造的に理解します。後半部分では、主に供給者側に課される医療制度を把握します。診療所と病院の違いから始め、さまざまな病院の分類、診療報酬制度やDPC/PDPSなども理解します。最後に世界の医療制度を把握して、今後の医療制度改革を考察します。</p> <p>(3)授業計画 第1回 国民医療費の動向と地域差 第2回 社会保障と社会保険 第3回 医療保険制度：被用者保険と地域保険 第4回 医療保険制度：一部負担と高額療養費制度 第5回 後期高齢者医療制度 第6回 介護保険制度：要介護認定と居宅サービス、小テスト 第7回 介護保険制度：施設サービスと地域密着型サービス 第8回 医療保険制度の変遷 第9回 病院と病院機能 第10回 病院と医療スタッフ 第11回 診療報酬制度と薬価 第12回 DPC/PDPSと病院会計 第13回 医療計画と地域医療構想、小テスト 第14回 医療・介護制度の国際比較 第15回 医療保険制度改革、授業アンケート 期末試験</p> <p>(4)成績評価の方法 【授業の達成目標】の1番目に記載された達成度を測るために、基礎的な知識の定着を確認する小テストを2回行う（各20%×2=40%）。続いて、【授業の達成目標】の2番目と3番目の達成度を測るため、基礎的な知識を用いて、医療制度に関する問題をすじみち立てて解決する方法を問う期末試験（60%）で評価を行う。</p> <p>(5)成績評価の基準 小テストと同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、難しい応用問題が解ければ「卓越している」</p> <p>(6)事前事後学習の内容 予習・復習用の授業レジュメを、eALPSにPDFファイルでアップする。各自で印刷して持参するか、ノートパソコンを持参すること。レジュメは穴埋め式となっているので、予習として1.5時間かけて穴埋め以外の項目について目を通すこと。講義後には穴埋めされたレジュメを復習し、授業で説明した概念を自らの手で再度まとめるとともに、時間の関係で説明を省略した部分を自ら調べること（1.5時間）。</p> <p>(7)履修上の注意 小テストを受験しないと、単位取得はきわめて厳しくなります。授業に出席して、きちんとノートをとってください。</p> <p>(8)質問、相談への対応 別の質問は、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーが無理な場合には、事前にメールでアポイントメントを取り、来室してください。</p>					
<p>【教科書】 指定しない。 【参考書】 細谷圭・増原宏明・林行成、医療経済学15講、978-4883842841、新世社、2018年、2,592円。</p>					

登録コード	J3211300	開講年度	2022	県内大学開放授業			
授業科目	環境と憲法訴訟			担当教員	成澤 孝人		
英文授業名	Constitutional Procedure for Environmental Law			副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜, 2時限	対象学年	(16カリ対象科目) 法: 3年
講義室	経法第4講義室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」 ・法学の専門領域の基礎能力として、リーガルマインドを備え、現代社会の諸問題を法的に解決していく上で必要な法学体系の基礎専門知識を身につける。 【授業の達成目標】 ・憲法訴訟の理論を理解し、具体的事例において憲法訴訟の理論を駆使し、妥当な法的結論を出せるようになる。 【授業のねらい】 日本国憲法において、憲法上の権利を侵害された人は司法裁判所に救済を求めることができる。そのための訴訟を憲法訴訟という。新司法試験をきっかけに、憲法学における憲法訴訟論の理論的水準は格段に上昇しており、実務も憲法学の成果を意識しつつある。また、2015年には、最高裁が10件目となる法令違憲判決を下しており、憲法訴訟は社会的にも注目を浴びようになっている。 本講義は、このような現状認識に基づき、二つのねらいを設定する。まず、受講者が憲法訴訟の理論を理解し、具体的な事例において説得的に憲法論を展開し、憲法事件について妥当な法的結論を出せるようにすることである。次に、環境権という「新しい人権」を題材に、人権を裁判によって実現していくことの社会的な意味を考えることである。</p> <p>(2)授業の概要 本講義では、日本国憲法における憲法訴訟について概説し、その実践例としての環境権訴訟を素材にして、憲法上の権利が裁判で実現されるということの意味を探究する。 まず、憲法訴訟について、各国の歴史を概観し、おおよその制度内容を理解する。次に、日本の現行制度が採用している付随的審査制の理論的な諸問題を検討していく。最後に、環境権訴訟を素材に憲法訴訟の意義を社会的な視点から考える。</p> <p>(3)授業計画 1 憲法訴訟とは何か 2 憲法訴訟の二つの制度 付随審査と抽象的審査 3 司法権と憲法訴訟 4 司法消極主義と二重の基準論 5 包括的基本権と環境権 6 憲法訴訟の訴訟形態 7 違憲判決の効力と判例の拘束力 8 憲法判断の方法...審査基準論 9 規制の態様～直接規制、間接規制、付随規制 10 法令違憲、適用違憲、合憲限定解釈 11 第三者の憲法上の権利の主張適格と文面上違憲無効の法理 12 厳格審査の事例の検討 13 中間審査の事例の検討 14 平和主義、政教分離と憲法訴訟 15 日本における環境権訴訟の展開</p> <p>(4)成績評価の方法 期末試験で判断する。</p> <p>(5)成績評価の基準 問われている憲法上の問題を適切に理解し、学説および判例を駆使して十分に説得的な結論を導き出していけば「かなり上にある」、そのうえで結論が教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、論点を適切に理解し結論も説得的だが、論理展開や叙述方法に不十分な箇所がみられる場合には「やや上にある」、論点は理解しているが、叙述方法、論理展開ともに平均的であれば「水準にある」と評価される。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 e-alps にレジюмеをアップするので、予習をしてほしい。</p> <p>(7)履修上の注意 「憲法」および「統治機構論」を履修していることが望ましい。</p> <p>(8)質問、相談への対応 講義に関して質問がある場合には、まずメールで連絡をすること。メールで相談の上、必要に応じた対応を行う。わからないことや疑問があれば、積極的に質問してほしい。</p>							
【教科書】 特に指定しない。 【参考書】 穴戸常寿 『憲法解釈論の応用と展開 [第2版]』(日本評論社, 2014) 戸松秀典 『憲法訴訟 第二版』(有斐閣, 2008) 長谷部恭男, 石川健治, 穴戸常寿編 『憲法判例百選 第7版』(有斐閣, 2019)、 『憲法判例百選 第7版』(有斐閣, 2019)							

登録コード	E2633900	開講年度	2022				
授業科目	体育社会学			担当教員	橋本 政晴		
英文授業名	Sociology of Physical Education			副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・1時限	対象学生	2-4年生
講義室	教育N104講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観 【授業の達成目標】 ・スポーツ社会学の認識枠組みを理解し、その枠組みで「広義の体育」について思考することができるようになる。 【授業のねらい】 スポーツを、その社会的な価値／規範／制度などといった社会的側面に着目して思考する領域をスポーツ社会学という。本授業は、「広義の体育」のもつ社会性について幅広く理解すると共に、各テーマにおけるその社会的な問題について奥深く理解することをねらいとする。</p> <p>(2)授業の概要 各回の授業において、スポーツ社会学に関するトピックを取り上げ、解説する。また、その背後にある「広義の体育」の歴史性・社会性について、映像や資料などを通して紹介する。それらをもとに、小レポートを作成することによって、各テーマにおける「広義の体育」の社会的な位置づけについて思考する力を培う。</p> <p>(3)授業計画 第01回：フェアプレーとは何か 第02回：遊びとしてのスポーツ 第03回：スポーツとナショナリズム 第04回：スポーツとメディア 第05回：スポーツと暴力 第06回：スポーツとドーピング 第07回：スポーツとジェンダー 第08回：スポーツとファン 第09回：スポーツとグローバリゼーション 第10回：スポーツとポストモダン 第11回：スポーツと体育 第12回：スポーツと体力低下 第13回：スポーツと環境問題 第14回：スポーツと障がい者 定期試験</p> <p>(4)成績評価の方法 成績評価は、次のとおりである。 ・スポーツ社会学の基本的な理解を導くための毎回の授業内容の理解度を測る小テスト（40％） ・スポーツ社会学の基本的な知識を習得したかどうかを測る筆記試験（60％） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀，89-80％ 優，79-70％ 良，69-60％ 可，59％以下 不可。</p> <p>(5)成績評価の基準 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題から難しい応用問題が解ければ「卓越している」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 授業の最後に、次回授業のテーマに関わる文献・資料等を例示し、教科書も含めて予習しておくべき箇所を指定する。 授業の冒頭で、前回の授業における優秀レポートを紹介し、前回のテーマについての理解をより深め、更なる学習のための文献・資料等を例示する。</p> <p>(7)履修上の注意 スポーツに関わるテレビ番組／新聞／雑誌／映画／漫画などに幅広く接しておくことが望ましい。</p> <p>(8)質問、相談への対応及び連絡先 橋本政晴／教育学部M館203 / hashimo@shinshu-u.ac.jp</p>							
<p>【教科書】 指定なし。 【参考文献】 井上俊・亀山佳明(編)『スポーツ文化を学ぶ人のために』世界思想社。 多木浩二『スポーツを考える：身体・資本・ナショナリズム』筑摩書房。 J. コークリー & P. ドネリー / 前田和司ほか訳『現代スポーツの社会学：課題と共生への道のり』南窓社。</p>							

登録コード	E9120200	開講年度	2022	県内大学開放授業	市民開放授業
授業科目	神経・生理心理学			担当教員	高橋 知音
英文授業名	Neuropsychology			副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・1時限
講義室	教育N303講義室		授業形態	講義	備考
対象学生	心理支援教育コース2年生以上、公認心理師受験を目指す人				
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能 【授業の達成目標】 ・人間の精神活動や行動の基盤となっている神経系の仕組みと働きを理解する。 【授業のねらい】 人間の精神活動や行動の基盤となっている神経系の仕組みと働きを理解する。</p> <p>(2)授業の概要 受講生は教科書の指定範囲を読み、疑問点を事前にe-Alpsで提出する。 受講生の疑問に答えながら、教員が講義を行う。 授業の最初に前週の内容の確認小テストを行う。 神経心理学に関する最新の研究動向を知るために、自らテーマを設定し、データベースを用いて文献検索し、まとめた内容についてポスター発表を行う。</p> <p>(3)授業計画 第1週 ガイダンス 脳の全体像 第2週 脳を構成する細胞のしくみ (20-23, 28-29) 第3週 脳を構成する細胞のしくみ (24-27) 第4週 大脳のしくみと働き (30-35) 第5週 大脳のしくみと働き (36-41)、小脳のしくみと働き (46-51) 第6週 間脳のしくみと働き (42-45)、脳幹のしくみと働き (52-55) 第7週 神経系の分類 (66-67)、自律神経のしくみと働き (76-79) 、運動を司る神経の構造 (80-81)、体性感覚を伝える神経の構造 (90-91) 第8週 特殊感覚を伝える神経の構造 (96-101) 第9週 確認テスト ポスター発表課題の説明 第10週 脳の病気がわかるおもな検査 (142-145) 第11週 記憶のしくみ (110-117) 第12週 学習のしくみ (118-123)、思考・判断・意志決定のメカニズム (128-129) 第13週 感情・思考のしくみ (124-127)、ストレス反応のしくみ (130-133) 第14週 睡眠のしくみ・コミュニケーションと脳機能 (134-140) 第15週 ポスター発表 (注)カッコ内は教科書の指定ページ</p> <p>(4)成績評価の方法 ・神経系のしくみや働きの理解のために問題意識を持って予習をしたかどうかを確認するための疑問点の提出10% ・神経系のしくみや働きの理解促進のため毎回の授業内容の理解度を確認する小テスト40% ・神経系のしくみや働きの理解を深めるための中間試験 30% ・神経系のしくみや働きの理解を深めるためのポスター発表 20% ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可</p> <p>(5)成績評価の基準 神経系のしくみや働きを理解するために問題意識を持って教科書を読み疑問点を表明でき、修得した知識を試験で示すことができ、最新の研究成果について情報を自ら集め英語で抄録を読んで理解でき、それを他の受講生にわかりやすく説明できたら「卓越している」、一部に不十分な点があるだけなら「かなり上にある」、いくつかの部分に不十分な点があれば「やや上にある」、いずれも不十分な点を残しつつもすべての課題をこなしていれば「水準にある」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 毎回の授業で指定範囲となっている部分について問題意識を持って教科書を読み疑問点をe-Alpsに記入する。各回の授業で学んだ事項について翌週の授業で小テストを行うので、その準備を行う。第9週目に確認テストを行うので、神経系の仕組みや働きについて復習し理解を確認する。自分で設定したテーマについて学術データベースを用いて論文検索を行い、テーマに沿った論文の抄録を10件集める。内容を読んでより関連の深い5件にしぼる。5件の抄録をポスターにまとめ、他の受講生にわかりやすく説明する。</p> <p>(7)履修上の注意 試験や課題が多いので、病気等による欠席の際はできるかぎり事前に連絡をすること。連絡があれば、成績評価の上で不利にならないよう、考慮する。</p> <p>(8)質問、相談への対応及び連絡先 高橋知音研究室 (N317) オフィスアワー 木曜日13:00-14:30 Phone:026-238-4223 e-mail:tomonet@shinshu-u.ac.jp</p>					
<p>【教科書】 坂井健雄・久光正 「ぜんぶわかる脳の事典」 成美堂出版 【参考文献】 特になし</p>					

V 信州大学への交通のご案内

<全学教育機構・人文学部・経法学部> 松本市旭3-1-1

- ・JR松本駅「お城口（東口）」を出て右前方、アルピコバス「松本バスターミナル」のりば1「信大横田循環線」、または「浅間線」に乗車し約15分、バス停「信州大学前」で下車して道路向かいに大学正門があります。
- 人文学部・経法学部・全学教育機構・附属図書館へは、次のバス停「大学西門」下車が便利です（どちらも200円）。



信州大学への交通のご案内

<教育学部> 長野市西長野6-0

- ①JR 長野駅善光寺口1番のりばで、アルピコバス「善光寺大門行（びんずる号）」、「善光寺經由宇木行」, 「善光寺・西条經由若槻東条行」, 「善光寺・若槻団地經由若槻東条行」のいずれかに乗車（10分）、バス停「花の小路」下車（徒歩7分）。
- ②JR 長野駅善光寺口4番のりばで中心市街地循環バス『ぐるりん号』に乗車（15分）、バス停「信大教育学部前」下車（徒歩2分）。
- ③JR 長野駅善光寺口7番のりばで、アルピコバス「県道經由戸隠中社行」, 「鬼無里行」, 「川後經由滝屋行」のいずれかに乗車（10分）、バス停「信大教育学部前」下車（徒歩1分）。



発行・編集／信州大学

総合窓口：学務部学務課教務グループ

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

TEL 0263-37-2870 FAX 0263-36-3044

URL : <https://www.shinshu-u.ac.jp/general/extension-courses/>

2023年2月発行